

千葉大学

大学院看護学研究科・看護学部

年報 2020

[2020.4～2021.3]

Annual Report 2020
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



CHIBA
UNIVERSITY



目 次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員（2020年4月1日～2021年3月31日までの在職者）	1
2. 学部生数および大学院生数	2
1) 学部生数.....	2
2) 大学院生数.....	2
II. 教育	3
1. カリキュラム	3
1) 看護学部看護学科.....	3
2) 大学院看護学研究科.....	5
2. 新たな教育の取り組み.....	10
1) 看護学部におけるメディア授業を活用した授業.....	10
2) 大学院看護学研究科.....	12
3. 研究科学位論文一覧	12
III. 研究	17
1. 教員の研究業績（領域別）	17
2. 科研費・競争的資金取得一覧.....	48
1) 文科科研・厚労科研.....	48
2) その他研究助成金.....	50
3. 共同研究	52
1) 国際共同研究	52
2) 民間共同研究	54
IV. 社会貢献活動	56
1. 学協会等への貢献.....	56
2. 国及び地方公共団体等への貢献.....	56
3. メディア・報道等を通じた貢献.....	57
V. 国際交流	58
1. 海外への渡航者数.....	58
2. 海外からの来訪者数	58
3. 海外の大学との協定	58
1) 大学間協定	58
2) 部局間協定.....	59

I. 組織

1. 教員組織と構成員（2020年4月1日～2021年3月31日までの在職者）

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	特任／技術					
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子					
			小児看護学	中村 伸枝			仲井 あや 中水流 彩						
			成人看護学	眞嶋 朋子 増島麻里子			楠 潤子 佐野 元洋	(特任専門職員) 佐藤 睦					
	生活創成看護学	健康増進看護学	高齢社会実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		佐々木ちひろ 山崎由利亜	(特任准教授) 大原 裕子 (特任研究員) 林 弥江				
				生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩					
				リハビリテーション看護学	森 恵美	岩田 裕子		木村佳代子 遠山 房絵	(特任准教授) 前原 邦江				
	生活創成看護学	地域創成看護学		健康管理看護学	北池 正 池崎 澄江								
				精神看護学	田上美千佳		野崎 章子	(特任助教) 渡邊 章子					
				地域看護学	石丸 美奈		岩瀬 靖子	鈴木 悟子 坂井 文乃 佐藤 太一					
	文化創成看護学			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子		湯本 晶代					
				文化看護学	理論看護学	山本 利江	斉藤しのぶ		飛世真理子				
				専門職育成学	看護教育学	中山登志子	井出 成美		植田満美子	(技術補佐員) 田代 実香			
	看護政策・管理学			看護管理学	(酒井 郁子)								
					(野地 有子)								
					(和住 淑子)								
共同災害看護学	災害看護学	災害看護学		宮崎美砂子	佐藤 奈保								
看護システム管理学	看護システム管理学			病院看護システム管理学	手島 恵								
									地域看護システム管理学		杉田由加里	飯野 理恵	
									ケア施設看護システム管理学	酒井 郁子			カズノブダビッド
研究指導センター	附属看護実践			ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子		(特任教授) 藤田比左子 (特任研究員) 炭谷 大輔 (技術補佐員) 米田 礼					
								政策・教育開発研究部	和住 淑子	銭 淑君	今村恵美子		
								附属専門職連携教育研究センター		(井出 成美)		(特任講師) 臼井いづみ (特任講師) 孫 佳茹 (特命助手) 馬場由美子	
計				19	10	6	16	13					

外部資金等講座	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン					(特任研究員) 國武由香里
計					1

2. 学部生数および大学院生数

(2020年4月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生 (留学生再掲)	卒業生累計 (2019年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80名+若干名)		329 (3)	3570
在 校 生 内 訳	1年	81 (3)	
	2年	88	
	3年	80	
	4年	80	

2) 大学院生数

専 攻	課 程 (入学定員)	在校生 (留学生再掲)	修了生累計 (2019年度迄)
大学院生 総数		155 (11)	1202
看護学	博士前期課程 (25名)	48 (3)	828
	博士後期課程 (12名)	59 (4)	216
	国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0	5
	国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	4 (4)	2
看護システム 管理学	修士課程 (12名)	36 (0)	150
共同災害 看護学	5年一貫制博士課程 (2名)	8 (0)	1

II. 教育

1. カリキュラム

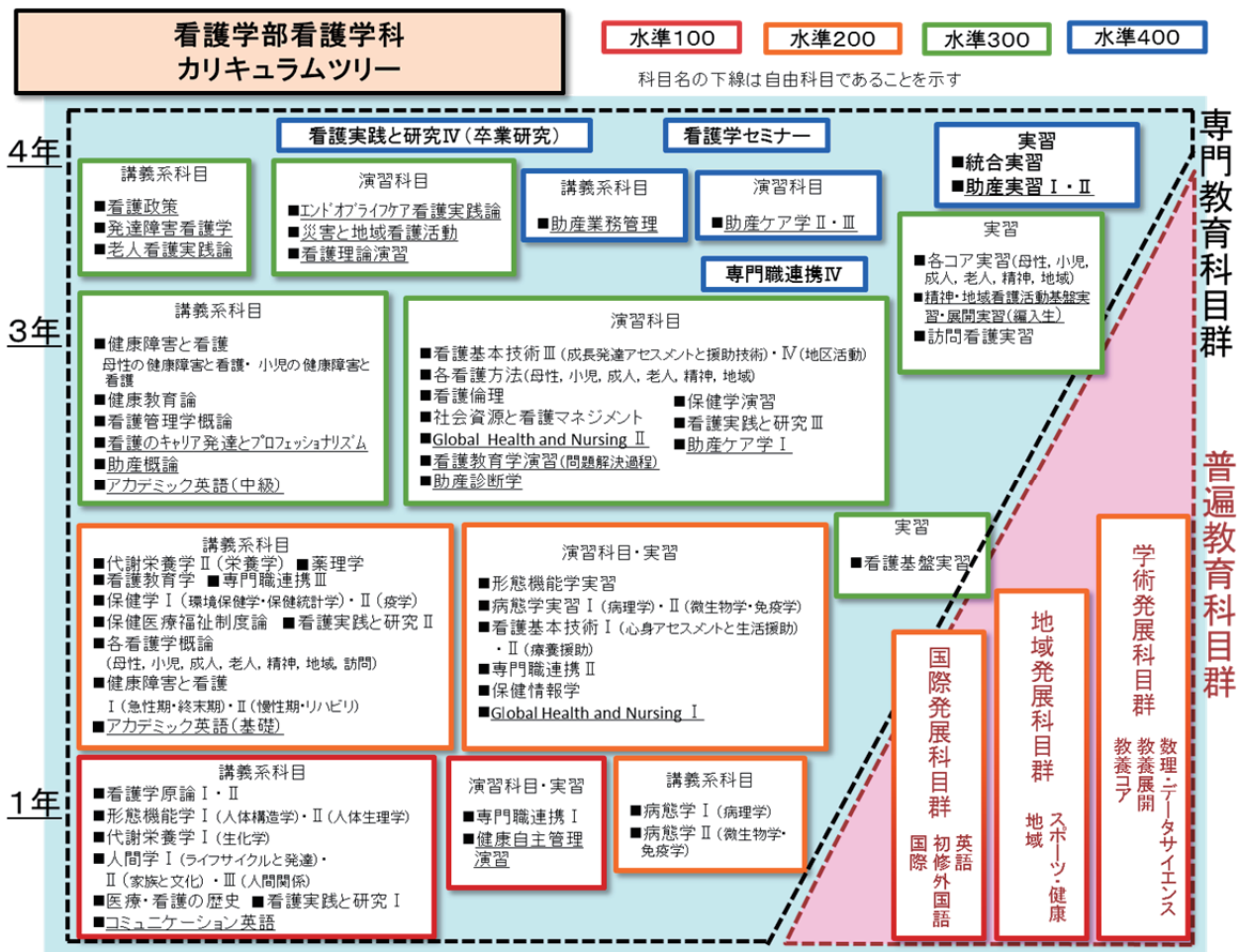
1) 看護学部看護学科

(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士（看護学）」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

なお、本学科は、社会人入試入学生、私費外国人留学生、3年次編入学生、科目等履修生などを受け入れている。このように様々な経験を有する者とともに学習する機会を多くしている。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県精神科医療センター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・千葉市立海浜病院
- ・成田赤十字病院
- ・船橋市立医療センター
- ・東京ほくと医療生活協同組合【浮間診療所】
- ・千葉県救急医療センター
- ・東京歯科大学市川総合病院
- ・山口病院
- ・葛飾赤十字産院

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院介護老人保健施設

<助産院>

- ・おおた助産院
- ・若草助産院

<診療所>

- ・有秋台医院
- ・ファミリー産院きみつ

<市町村>

- ・市原市保健福祉部 保健センター
- ・白井市
- ・鋸南町
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛健康福祉センター

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・市川健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションコスモス

<地域包括支援センター>

- ・十条高齢者あんしんセンター

<小中学校>

- ・千葉市立畑小学校
- ・千葉市立高洲小学校
- ・千葉市立草野小学校
- ・千葉市立轟町中学校
- ・千葉市立大椎小学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立さつきが丘東小学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立本町小学校
- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立検見川小学校

<保育園>

- ・たいよう保育園
- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・今井保育園
- ・作草部保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園

<その他>

- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・スペースぴあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・千葉市子育て支援館
- ・モーハウス

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

(1) 看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程：国際プログラム）

① 教育目的および特徴

看護学専攻では、看護師の行う実践の諸活動に科学的根拠を与える基礎的理論とその応用を体系的に教授研究し、国民の健康生活を守ることのできる看護支援方法の研究・開発が自立して推進できるナース・サイエンティストを育て、我が国の精神文化にふさわしいヒューマンケアの基盤を確立させることを目指している。

本専攻は、博士前期課程2年と後期課程3年に分けられており、前期課程では、研究者としての基礎的能力を育て、後期課程では、看護学分野の調査研究を独立して実施でき、かつ知識の蓄積・拡大・精選・伝達等に貢献できる能力を養う。

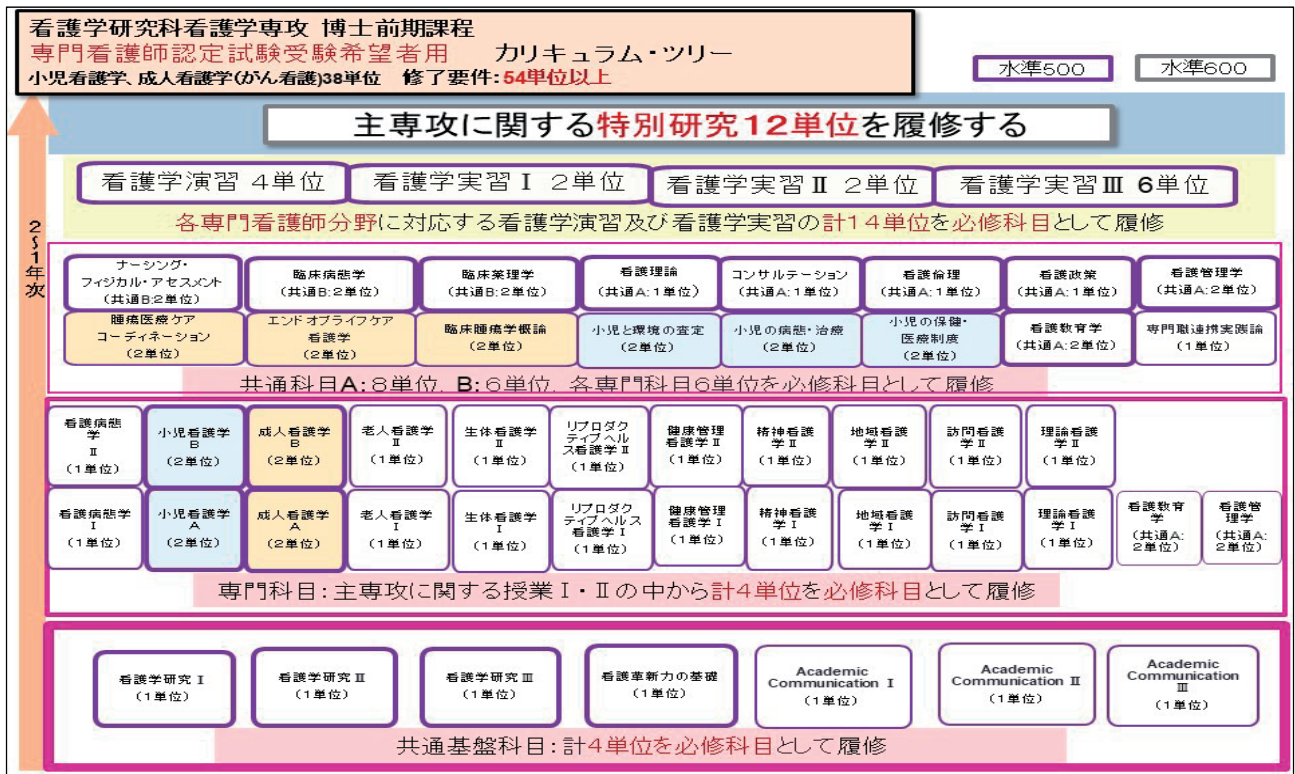
本専攻では、看護学研究発展の長期的展望に立ち、看護学固有の課題、すなわち、看護専門職の行う援助技術の発展に直結した研究課題を重視し、かつ看護学の学術的基盤を確実に発展させるために、医学や保健学など健康科学の広範な領域の研究手法、さらには人文・社会科学系、自然科学系の研究方法の応用にも重点をおいており、したがって複数の教員研究分野の指導教員から研究指導が行われる。

なお、看護実践のための技術研究を推進するに際しては、研究者自身の臨床経験が重要な意味をもつので、臨床経験を配慮した教育課程となっている。

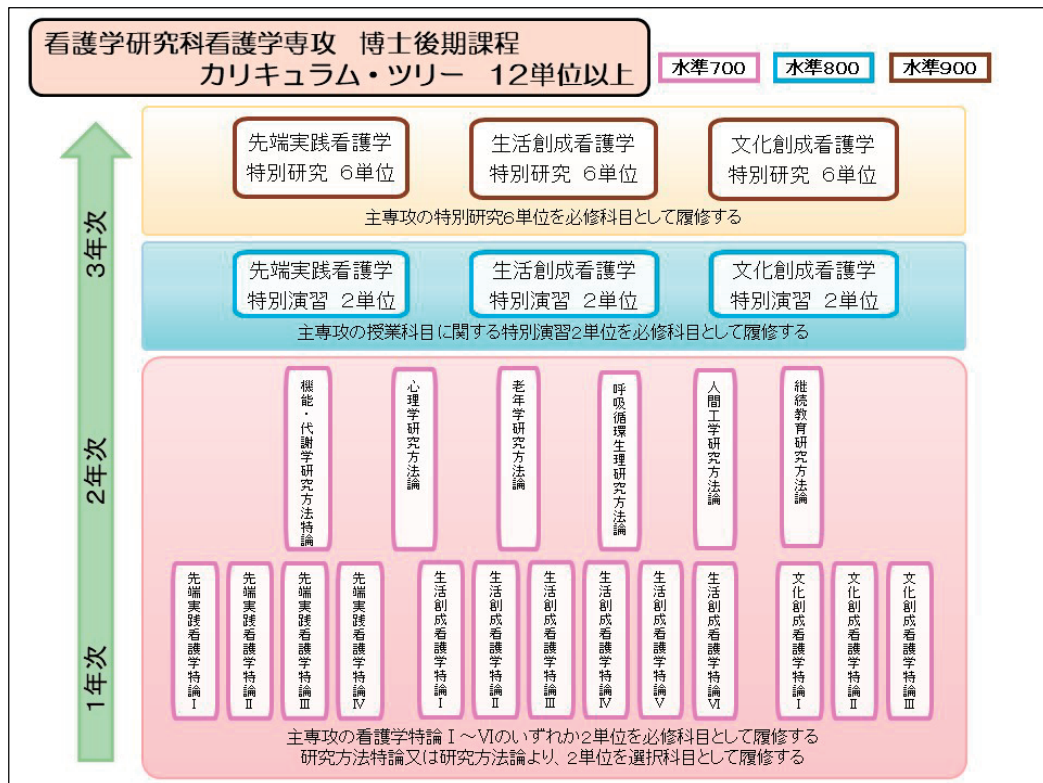
〔博士前期課程〕



[博士前期課程・専門看護師認定試験受験希望者コース]



[博士後期課程]



② 臨地実習協力施設一覧

<病院・診療所>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉市立海浜病院
- ・聖隷佐倉市民病院
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター
- ・おゆみのクリニック
- ・千葉県こども病院
- ・初富保健病院
- ・小田原市立病院
- ・立正佼成会附属佼成病院
- ・おおた小児科

<その他>

- ・訪問看護ステーションフレンド
- ・みつわ台保育園
- ・横浜市下永谷地域ケアプラザ

(敬称略、順不同)

(2) 看護システム管理学専攻（修士課程）

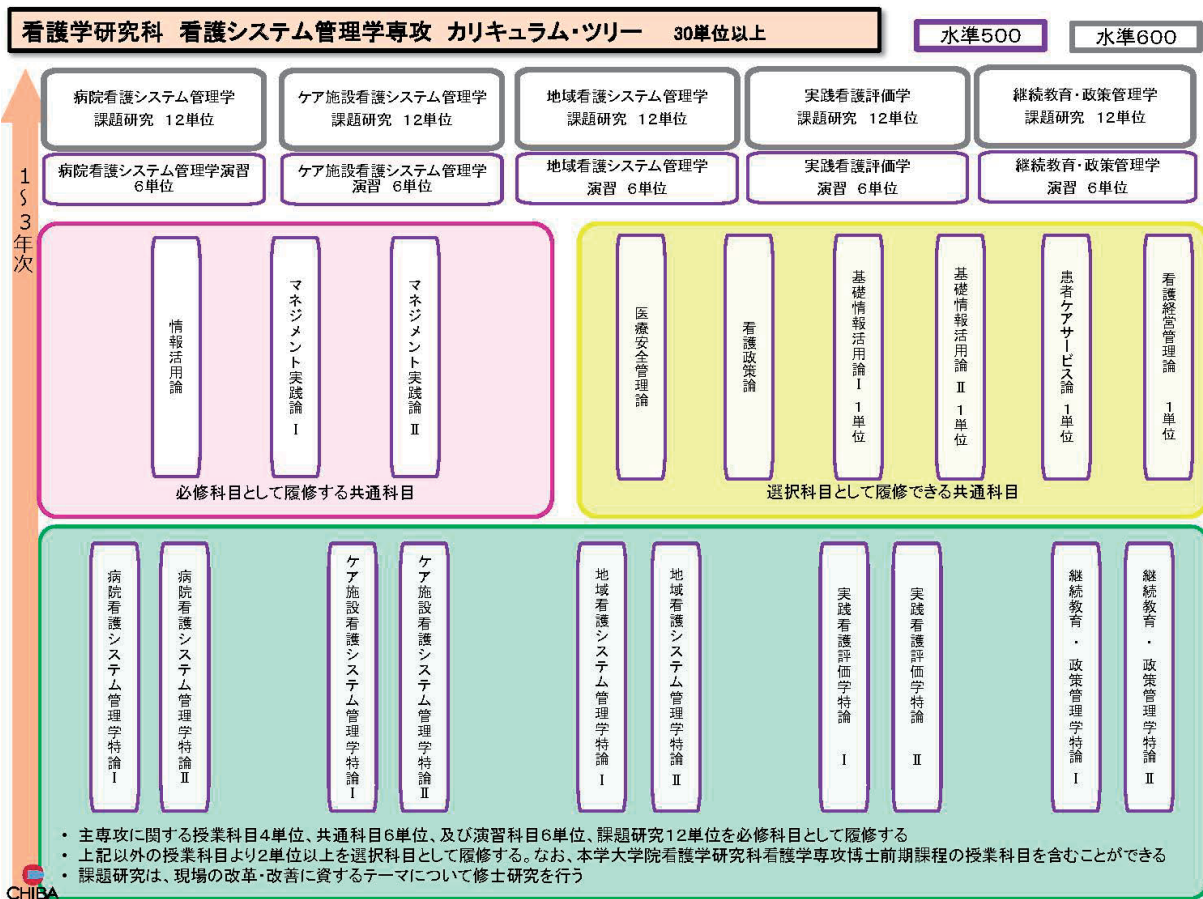
① 教育目的および特徴

看護システム管理学専攻では、国民一人一人の自己実現を含めた健康生活に対する多面的・多様な支援を連携・協働の精神に基づき強化・促進すること、すなわち、「看護」を組織的・社会的に推進する人材を養成することを理念とし、看護管理にあたる看護職者に対して、看護を通して新たな社会的価値を生み出す高度問題解決能力及び保健医療福祉の変化の状況を俯瞰し、変革的に行動する能力の付与を目標としている。

本専攻は、看護実践能力に加えて、看護実践の場を国民のニーズと医療の高度化に対応して改革する意欲とこれを実践的に検証しうる立場を持っている現職の看護管理者を対象としており、看護実践と学業の両立を前提とした教育課程となっている。

本専攻の特徴は、以下の如くである。

- 看護管理者を現職のまま受け入れる。
- 在学期間を3年間の長期在学としている。
- 現職のまま職場の問題を取り上げ、修士研究として課題研究を行う。



(3) 共同災害看護学専攻（5年一貫制博士課程）

① 教育目的および特徴

共同災害看護学専攻は5年一貫制の博士課程であり、高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、東京医科歯科大学及び日本赤十字看護大学（以下、構成大学）の5大学によって設置される、共同教育課程^(*)である。本専攻は、人間の安全保障の進展に寄与することを目的とし、求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、学際的・国際的指導力を発揮する災害看護グローバルリーダーを養成することを目標とする。

教育課程は、看護学を基盤として、災害に関連する諸学問と相互に連携しつつ、学術の理論及び応用について産官学を視野に入れた教育研究を行い、その深奥を極めることを目指す。目標に基づいた6科目群（看護災害看護学演習、災害看護学実習、及び災害看護学に関する研究支援科目群）を編成し、先端的なICTであるTV会議システムとラーニングマネジメントシステムを用いた遠隔授業、遠隔および集合による高度なシミュレーション教育、国内外における研究及び実践活動のフィールドワーク、産官学協働の短期・長期インターンシップ等の方法を効果的に用いてグローバルリーダーとしての能力を培う。また博士論文を、全構成大学の教員による幅広く多面的な研究指導体制の下で作成する。

^(*) 高等教育機関の連携協力による教育・研究・社会貢献機能の充実・強化を一層促進すること等を目的に、複数の国公私立大学が相互に教育研究資源を有効に活用し、共同で教育課程を編成するものである。



2. 新たな教育の取り組み

1) 看護学部におけるメディア授業を活用した授業

1. 看護基本技術Ⅰ・Ⅱ、看護基盤実習

① 担当教員

◎山本利江、斉藤しのぶ、飛世真理子

② 概要

本授業は、2年次の学生を対象に実施している。以下に各授業の目的を示す。

<看護基本技術Ⅰ>

保健・医療の必要性を判断するとともに、医療を必要とする人々に適切な看護援助を提供するために必要な観察技術として心身アセスメントと生活援助技術を修得する。

<看護基本技術Ⅱ>

医療を受ける人への専門的援助と、人々が持てる力を最大限に働かせて生を充実できるよう援助を組み立てていくのに必要となる看護過程展開の技術を修得する。

<看護基盤実習>

受け持ち患者を1名担当して看護過程を展開する、人間についての幅広い専門知識を活用し、受け持ち患者を統一体として理解し、根拠に基づいて看護実践を実施する。また、実践の考察を通して看護学を実践の学として位置づける思考過程を体験する。

③ 本年度の取り組み

本年度は、初回は、COVID19パンデミックの体験を活かし、自然界におけるウィルスとの関係、生体防御機構、予防行動等感染予防に関して看護学の視点から改めて捉えなおした内容を講義する機会とした。

例年、看護基本技術の前提である対象の条件や目的、原理、看護の視点について説明後、演習実施という流れであるが、本年度はこれら前提となる知識の確認をメディア授業にて伝え、それを踏まえ自宅でできる技術演習の課題を課した。(例；『良肢位』では、事例患者の良肢位を整えた状態を自分で行って写メを撮り、ポイントを書いてMoodleに提出)また、反転授業の機会を設け、学生が約6名ずつのチームを組み、『経管栄養法』もしくは『浣腸』の授業を担当し、学生自身が調べて学んだ知識を音声付きPowerPoint資料としてメディアで発表した。

看護基盤実習は、実習目標は変更せず、スタンダードスキルスラボに模擬病棟を作り、グループで模擬患者の看護過程展開を行う内容とした。

模擬患者の逼真に迫る様子に学生は驚きながらも身動きが取れなかったことから、自らの看護技術の修得段階を自己評価し、学習課題を明らかにした。学習課題を明確にすることで、演習時間が限られる中での実施に向かう学生の集中力の高さが発揮されていたと考える。

2. 病態学実習

① 担当教職員

◎岡田忍、小川俊子、西尾淳子

② 概要

本科目は、実際の病変の観察を通して、代表的な疾患における細胞、組織の変化を理解し、1年次に学習した形態機能学、病態学の知識を活用して、事例に生じている複数の病態を関連つけてとらえる力を養うことを目標としている。具体的には各器官系の代表的な疾患の肉眼標本を観察し、剖検事例で起こっている病変についての課題(機序の異なる心肥大や前立腺がんの事例における腎盂腎炎・水腎症、髄外造血の原因についての考察など)についてレポートを作成するマ

クロ実習と代表的な病変の組織像（心筋梗塞、正常な小葉構造と肝硬変、前立腺肥大と前立腺がん、血球）について観察し、スケッチをするマイクロ実習から構成される。

③ 本年度の取り組み

本年度は、対面での実習が中止となったため、マクロ実習については事例を含む病変の説明について全て動画を作成して Moodle にアップロードし、これを視聴してレポートを作成・提出してもらった。マイクロ実習については、各組織の観察についての説明の動画とスケッチ用の画像を Moodle にアップロードし、スケッチをし、提出してもらった。これまでは、特にマクロ実習で学生の人数に対して教員が少なかったため、事例の標本についても説明が十分にできなかつたり、事例以外の標本の観察は学生に任せている部分があったが、動画を作成したことで、観察してほしい部分に対する詳細な説明を提供することが可能になった。マイクロ実習については、順序性に配慮して組織標本を観察することができるようになり、病変で起こっている細胞・組織レベルの変化の理解が容易になったと考える。

3. 地域看護学概論（家庭訪問事例セミナー）

① 担当教員

◎石丸美奈、岩瀬靖子、鈴木悟子、佐藤太一、宮崎美砂子
（ティーチングアシスタント）井口沙織（D2）、竹内教子（M2）、
長山莉久里（M1）、松浦めぐみ（M1）

② 概要

本授業は、公衆衛生看護活動の中核となる家族支援の基本的なあり方が理解できること、生活の場に出向いて行う保健師の家庭訪問援助の実際について具体的にイメージできることを目的にしたグループセミナーである。

地域看護学概論の3、4回目に2限続きで行い、グループには担当教員（TA）が1-2名入る。学生は事前に、保健所保健師の援助を基に教材化した「難病患者のいる世帯への援助」事例を熟読し、事前課題に取り組んだ上でセミナーに参加する。セミナーで意見交換の後、事後課題レポートを作成する。教員・TA間で、事前事後に打ち合わせをし、セミナーが効果的な学習となるための工夫や学生の学習状況等について共有している。

③ 本年度の取り組み

今年度はメディア授業となったために、学生アカウントの Teams 上で同時双方向型セミナーを実施した。一グループは5~6名の学生と1~2名の教員・TAである。二部制にし、一人の学生のグループセミナーは一時限分であるが、残りの一時限分は、同じグループの学生の事前レポートを読むことと事後レポート作成に充てた。事前に、Teamsに14のチャンネルを立て、学生を登録し、事前・事後レポートは各自登録されたチャンネルにアップしてもらった。セミナーでは、学生一人ひとりが事前課題に基づいて発言し、教員はその発言から読みとれる学生自身の看護観に留意し、それを地域看護の概念に結びつけて説明した。また、自身の体験も紹介しながら、保健師活動がイメージできるよう工夫した。各学生の事後レポートには、教員がコメントを書き、フィードバックした。学生からは、家族を単位とした看護や生活の営みに即した支援の方法等に関する学びに加え、他の学生の多様な意見が聞けて自らの考えが深まったなどの感想が例年以上に多く寄せられた。

4. 精神・地域看護コア実習（演習：新型コロナウイルス感染症流行下の保健師活動に関する説明と積極的疫学調査ロールプレイ）

① 担当教員

◎石丸美奈、岩瀬靖子、鈴木悟子、佐藤太一、飯野理恵

② 概要

本演習プログラムは、新型コロナウイルス感染症への対応が逼迫する保健所での実習受入が困難となった学生を対象に、健康危機に対する保健所保健師の機能・役割を考えること、ならびに看護援助の基本技術の習得を目指して実施したものである。演習プログラムは、(1) 教員が経験した新型コロナウイルス感染症に対する保健所保健師としての活動経験の説明、(2) 仮想事例を用いた積極的疫学調査ロールプレイの実施で構成した。

③ 本年度の取り組み

本年度は、4グループ、合計36名が本演習プログラムを受講した。積極的疫学調査ロールプレイの実施にあたっては、2～4名の学生あたり1人の教員が指導を担当した。学生のレポートからは、短い時間の中でも対象者と目的を共有しながら支援を展開することで信頼関係を築いていく重要性を実感したことや、事例から見えた感染リスクの高い環境や地域の感染対策の実態を、地域全体の対策に活かしていくことが保健師の役割であると学んでいることが確認できた。

5. 精神・地域看護コア実習（ビデオ会議システムを活用した住民とのオンライン健康相談・検討会議）

① 担当教員

◎石丸美奈、岩瀬靖子、鈴木悟子、佐藤太一、杉田由加里

② 概要

本取り組みは、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、これまで実施してきた住民との協働による健康支援プログラム（健康教育・健康相談・住民代表者との検討会議）の企画・実施・評価を通じた実習が困難となったため、実施したものである。本取り組みは、地域の健康問題や多様な価値観を理解し、地域住民や関係職者と協働しながら住民の健康生活とその基盤となる健康な地域の創生を支援する看護実践能力を養うことを目的として実施した。本取り組みは、健康支援プログラム（オンライン健康相談・住民代表者とのオンライン検討会議）の企画・実施・評価によって構成した。

③ 本年度の取り組み

本年度は、2グループ、合計28名が本取り組みを受講した。教員が、事前に住民の代表であるA団地住宅管理組合の理事長等とオンラインでの健康支援プログラムの実施について協議した。オンライン健康相談は住民1人を学生1～2名が担当し、20～30分程度、ビデオ会議システムを活用して行った。住民は、A団地の集会所に予約時間に来所してもらい、限られた学生が、感染予防に留意して、集会所で対応を実施した。

オンライン検討会議は、住宅管理組合の理事長と1時間程度、実施した。

学生のレポートからは、住民の生きがいなど価値をおいていることを理解した上でそれを継続するために健康問題に取り組めるよう支援することの重要性に気づいたことや、住民の中でリーダー役割を取っている人が発揮している力をフィードバックしたり、リーダーとしての悩みを一緒に解決する姿勢で共に考えるという支援の必要性を理解したことが確認できた。

2) 大学院看護学研究科

1. 改組後の博士前期・後期課程新カリキュラムの準備

① 担当教員

大学院カリキュラム検討部会

◎諏訪さゆり 酒井郁子 和住淑子 黒田久美子 増島麻里子 カズノブ・ダビッド

② 概要

2021年度から改組によって看護学研究科の体制が大きく変わり、博士前期・後期課程ともに、カリキュラムが改定される。そのための準備に全教員で取り組んだ。

③ 本年度の取り組み

2020年度までの3専攻（看護学専攻、看護システム管理学専攻、共同災害看護学専攻）を、2021年度から看護学専攻1専攻とすることで、効果的な教育・研究体制を整備する。具体的には、博士前期課程は看護学コース、看護実践学コースの2コースから成り、看護実践学コースには看護管理学プログラム、高度実践看護学プログラム、特定看護学プログラムの3プログラムを含む。また、共同災害看護学専攻で培った教育内容を維持し、本研究科が強みとする中長期支援を強化すると共に、5大学のコンソーシアム体制のもと「災害看護副専攻プログラム」を開始する。

2021年度から博士前期・後期課程ともに、新カリキュラムとなるため、2020年度はシラバス作成などの準備に全教員で取り組んだ。博士後期課程においては、新カリキュラムで開講を予定している科目（学際研究Ⅰ（導入）、看護イノベーション特論、システムティックレビュー、アカデミックライティング）を、選択科目として、先行開講した。

④ 資金

なし

2. 2020年度からの全員留学ENGINEのための教育基盤の整備

① 担当教員

大学院教務委員会 ◎手島恵委員長 増島麻里子副委員長

② 概要

2020年度から千葉大学として全員留学を開始することから、看護学研究科における教育基盤を整備した。

③ 本年度の取り組み

大学院生のENGINE計画立案から実施、報告書提出までの一連のプロセスを書類の様式も含めて整えた。カリキュラム上の位置づけも大学院生に対して明確に示した。しかし、COVID-19感染症の拡大により、実際には留学することが困難になったため、看護学研究科では、ENGINE（緊急）代替プログラムとして、Nightingale Challengesなどを大学院生に提供した。

④ 資金

915,000円（Nightingale Challenges 開発・運営経費として）

3. 研究科学位論文一覧

令和2年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

[博士論文(甲号)]

専門領域	論文名	氏名	指導教員
リプロダクティブヘルス看護学	児童養護施設の思春期女子へのリプロダクティブ・ヘルスケアモデルの開発	福島 裕子	森 恵美
地域看護学	災害時の公衆衛生看護実践における倫理的意思決定能力の育成を目的とした教育手法モデルの開発 －市町村に所属する実務担当保健師を対象として－	岩瀬 靖子	石丸 美奈
老人看護学	一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したリフレクションシートの開発	近藤 絵美	正木 治恵
災害看護学	高齢者が災害への備えを実践するための支援方法の構築 －実践共同体によるアプローチ－	波多野祐子	宮崎美砂子
成人看護学	外来化学療法を受ける大腸がん患者のセルフマネジメントを促進する看護支援モデルの開発	高須 清子	眞嶋 朋子
老人看護学	高齢者と家族が透析治療を受ける生活に対し折り合いをつける力を発揮するための看護実践モデルの開発 －透析治療導入期に焦点を当てて－	清水なつ美	正木 治恵
生体看護学	肝臓がん患者を対象とした Tyrosine kinase inhibitor による Hand-foot skin reaction 発生の関連要因 －足底の発症に着目して－	田原裕希恵	小宮山政敏
生体看護学	患者の睡眠を妨げない看護援助方法の開発	菅原 久純	小宮山政敏
健康管理看護学	病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの開発と評価	路 璐	北池 正
健康管理看護学	周術期外来における術前不安と術前管理に着目したケアガイドの作成と検証	姫野 雄太	北池 正
訪問看護学	幼児期・学童期に重度の障害を有した中途障害児と家族の経験する家族発達課題の解明 －就園・就学・進学・就労の時期に焦点を当てて－	佐藤 愛	諏訪さゆり

〔修士論文〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
小児看護学	思春期にがんを発症した患者の妊孕性に向けた意思決定と周囲の関わり	福本 千英	中村 伸枝
小児看護学	造血幹細胞移植後の合併症を抱える思春期患者の療養生活	高橋 麻美	中村 伸枝
成人看護学	集中治療室にて終末期を過ごした患者の尊厳を重視する集中治療室看護師の実践知	依田 智未	増島麻里子
成人看護学	遺伝子パネル検査を受けるがん患者に対するがん看護専門看護師の役割に関する研究	柳田 麻衣	増島麻里子
成人看護学	高齢者向け住まいの看護職員が捉える進行期がんの入居者に対する看護実践の工夫と困難	夏井あすか	眞嶋 朋子
成人看護学	慢性心不全看護認定看護師の心不全患者のエンド・オブ・ライフに向けた家族の意思決定のための関わり	金城 芽里	眞嶋 朋子
成人看護学	乳がん術後にリンパ浮腫を生じた患者の体験 : A meta synthesis	肖 孟舂	増島麻里子
老人看護学	日本の病院における高齢者のエンドオブライフケア質評価票の作成	段 暁楠	正木 治恵
老人看護学	成年後見人の権利擁護場面での困難感	小野 年弘	正木 治恵
老人看護学	認知症を有する高齢者が訪問看護師との相互作用を通して表出する自我発達の様相	曾根 祐子	正木 治恵
生体看護学	遺伝性早老症ウェルナー症候群における足部・足関節の自覚症状と健康関連 Quality of Life の関係	北川 柚香	雨宮 歩
リプロダクティブヘルス看護学	妊娠期にバースプランを作成して出産をした女性の経験	棧 あさな	森 恵美
地域看護学	妊娠糖尿病と診断された経験をもつ女性の妊娠期から養育期における保健行動	竹内 教子	石丸 美奈
訪問看護学	社会参加をする認知症の人への支援過程からの学び	北村 昌子	諏訪さゆり
訪問看護学	在宅認知症高齢者の排泄に関する生活障害と家族介護者によるケア	石坂 晴奈	諏訪さゆり
訪問看護学	シニア家族介護者のテクノロジーを利用した日常生活と在宅介護ロボット利用意思との関連	雫石 英里	諏訪さゆり
訪問看護学	がん治療の意思決定をする認知症高齢者のための専門・認定看護師と医師による支援	中尾 有花	諏訪さゆり
理論看護学	介護老人保健施設における口腔ケアを中心とした生活場面に見られる高齢者の生活機能	中條 華子	斉藤しのぶ
理論看護学	ICU の中堅看護師が OJT を通して認知する回復をすすめる看護と指導の論理	清水 祐	山本 利江
看護教育学	病院を退職した看護師の経験に関する研究	高橋吏才子	中山登志子

〔修士研究報告書〕

領域	研究題目	氏名	指導教員
病院看護システム 管理学	中小規模病院看護部長のネットワークづくり －名古屋・尾張中部医療圏での相互支援を通じた看護の質向上を目指して－	寺田八重子	手島 恵
病院看護システム 管理学	急性期医療施設における看護師と看護助手の協働に向けた職場環境の再構築	渡邊 美香	手島 恵
病院看護システム 管理学	特定機能病院における地域連携の再構築	片岡 美樹	手島 恵
地域看護システム 管理学	効果的な経口抗がん剤治療の継続に向けたA病院外来における患者支援のしくみづくり	須藤 郁子	杉田由加里
地域看護システム 管理学	自治体で行うがん検診において保健師と事務職員が役割を發揮する仕組みづくり	前田由希子	飯野 理恵
ケア施設看護システム 管理学	有床診療所における療養支援のためのシステム構築	岩本由美子	酒井 郁子
ケア施設看護システム 管理学	高齢者専門病院における根拠に基づいたケア改善システムの構築	檜木野桃子	酒井 郁子
実践看護評価学	慢性期病院における看護師のインシデントレポートを活用した有害事象防止対策のしくみづくり	尾形 智美	野地 有子
実践看護評価学	急性期地域中核病院において「安全で良質な医療の実践」を推進する看護医療安全教育 －教育プログラムと教育方法の開発－	矢野 綾子	野地 有子
継続教育・政策 管理学	「経過観察をしながら症状の顕在化を待つ医療」から、「患者の健康回復を積極的に支援する医療」への転換 －患者の力を活かす生活調整支援を通して－	佐藤 朋子	和住 淑子
継続教育・政策 管理学	患者中心の発想による看護管理者のマネジメント能力の開発 －看護の専門性を發揮できる組織への変革を目指して－	新井加代子	和住 淑子
継続教育・政策 管理学	患者の生きていく力を軸に看護の情報処理がなされる看護記録システムの再構築	鮎澤ひとみ	和住 淑子

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（領域別）

看護病態学

〔原著〕

1. Nyamadzawo, A., Nishio, J., Okada, S., & Nyamakura, R. (2020). Effect of using portable alcohol-based handrub on nurses' hand hygiene compliance and nasal carriage of staphylococcus aureus in a low-income health setting. *Am J Infect Control*, 48(5), 473-479. doi:10.1016/j.ajic.2020.02.007
2. Kameda, N*, Isono, S., & Okada, S. (2020). Effects of postoperative active warming and early exercise on postoperative body temperature distribution: Non-blinded and randomized controlled trial. *Jpn J Nurs Sci*, 17(3), e12335. doi:10.1111/jjns.12335
*博士後期課程修了

〔単行書〕

3. 岡田忍,佐伯由香:改訂版 疾病の成立と回復促進-人体の構造と機能及び疾病 B.放送大学教育振興会,1-62,157-177,2021.

〔学会発表抄録〕

4. 中村友美**,岡田忍:在宅高齢者における簡便なスキンケア方法の効果について.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,37,2020.
**看護学部卒業
5. 高橋佐知子**,岡田忍:大学生のインフルエンザ感染防止行動の実態.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,43,2020.
**看護学部卒業

〔シンポジウム・招聘講演〕

6. 第 12 回文化看護学会学術集会 鼎談
岡田忍:身体性について.神戸大学バーチャル会場 (Zoom 開催)

〔論文等（査読なし）〕

7. 岡田忍:2020 年度第 1 回日本リンパ浮腫療法学会教育セミナー むくみを引き起こす疾患 オンデマンド Web セミナー

小児看護学

〔原著〕

1. 雨宮歩,中村伸枝,中島由紀子,仲井あや,下屋聡平:持続皮下インスリン注入療法(CSII)を行う糖尿病をもつ小児の皮膚トラブルの実態.日本糖尿病教育・看護学会誌,24(2),103-109,2020

〔論文等（査読なし）〕

2. 中村伸枝:第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会報告 身体から生活・人生を見る～成長していく子どもたちが教えてくれたこと～.日本糖尿病教育・看護学会誌,24(1),41-44,2020.

〔学会発表抄録〕

3. 清水祐美*,仲井あや,中村伸枝:発達上の課題がある子どもとクラスメイトの年齢に応じた社会性獲得にむけた保育所での支援.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,35,2020.

*看護学部卒業

4. 長谷川円香*,仲井あや,中村伸枝:NICU 退院後も医療ケアを必要とする子どもの家族への技術獲得を支援する看護師による初回の関わり.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,36,2020.

*看護学部卒業

5. 橋山侑花*,下屋聡平**,中村伸枝:母親が乳幼児期にある子どもの長期入院に付き添う中で抱える困難とその対処過程.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,38,2020.

*看護学部卒業,**本研究科教員

6. 中村伸枝,奥朋子,水野芳子,瀬尾智美,眞嶋朋子,仲井あや:10 年以上の活動験をもつ専門看護師の医療・社会情勢をふまえた活動や役割の変化.第 40 回日本看護科学学会学術集会抄録集,P1-025,2020.
7. 水野芳子,仁尾かおり,中村伸枝,黒田光恵,森貞敦子,山崎啓子,栗田直央子:小児慢性疾患患者の移行支援(Transition と Transfer)ー小児医療施設に通院する成人患者のケアを考えるー.第 40 回日本看護科学学会学術集会抄録集,K38,2020.
8. 仲井あや,中水流彩,中村伸枝:コロナ禍における看護実習.第 45 回千葉県小児保健協会総会・学術集会,web 開催,2020.

〔シンポジウム・招聘講演〕

9. 第 56 回日本小児循環器学会総会・学術集会 多領域シンポジウム「小児循環器看護」
中水流彩:手術治療の意思決定における患児の参加と患児への説明. 第 56 回日本小児循環器学会総会・学術集会,web 開催,2020.

〔受賞 (国内・国外)〕

10. 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会「功労賞」
中村伸枝:一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会 (国内)
11. 2020 年度千葉看護学会表彰論文
中水流彩:先天性心疾患手術を受ける幼児の主體的なレジリエンス発達を促進する看護援助の考案.千葉看護学会会誌,25(2),1-11,2020. (国内)

成人看護学

〔原著〕

1. 太塚知子,眞嶋朋子:子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマ体験.千葉看護学会会誌,26(1),79-86,2020.
2. 河村奈緒,楠潤子,増島麻里子:外来がん薬物療法を継続する終末期がん患者の家族の体験.日本がん看護学会誌,34,115-125,2020.
3. 楠潤子,増島麻里子,眞嶋朋子:看護師,医師,薬剤師によるがん患者への補完・代替療法利用支援.千葉看護学会会誌,26(1),49-57,2020.
4. 國武由香里,長坂育代,眞嶋朋子:糖尿病を併存疾患に持ち外来化学療法を受ける膵・胆管がん患者の治療継続中の体験.千葉看護学会会誌,26(1),9-17,2020.
5. 小林成光,角甲純,大園康文:緩和ケア病棟入院後に看取りとなった患者とその家族の情報を訪問看護師へ提供することの有用性の検討.がん看護,25(4),379-385,2020.
6. 小林成光,長坂育代,増島麻里子:就労世代のがん患者のがん罹患後から離職に至るまでの体験の過程.日本がん看護学会誌,35,10-19,2021.
7. 渡邊美和,増島麻里子:進行がん患者と家族の間での終末期の話し合いを促進するための家族への看護プログラムの開発.千葉看護学会会誌,26(1),39-48,2020.
8. Li F., Jiang T., Shi T., Liu Y, Liu X, Xu G., Liu Y., Shi Y.: Factors that affect the duration of wearing disposable personal protective equipment by healthcare professionals in Wuhan during treatment of COVID-19 patients: An epidemiological study, Nursing & Health Science

2021 1-10, DOI: 10.1111/nhs.12814

9. Liu Y, Jiang T, Shi T, Liu Y, Liu X, Xu G, Li F, Wang Y, Wu X: The effectiveness of diaphragmatic breathing relaxation training for improving sleep quality among nursing staff during the COVID-19 outbreak: a before and after study, *Sleep Medicine* 78, 8-14, 2021.

〔論文等（査読あり）〕

10. 佐野元洋:ICT を活用した心不全管理の可能性.*BIO Clinica*,36(3),236-238,2021.
11. 牧野夏子,城丸瑞恵,太塚知子:周手術期看護の技術演習を組み込んだ急性期看護過程の授業展開.看護教育,61(5),432-437,2020.
12. 姜桐桐,周艳丽,刘宇,史铁英:慢性心力衰竭患者自我管理内在与外在影响因素的研究进展,中华现代护理杂志 2020 年 10 月 16 日第 26 卷第 29 期 *Chin J Mod Nurs*,26 (29) 4001-4006,2020.
13. Kako, J., Kobayashi, M., Oosono, Y., Kajiwara, K., Miyashita, M.(2020). Immediate Effect of Fan Therapy in Terminal Cancer With Dyspnea at Rest:A Meta-Analysis. *American Journal of Hospice and Palliative Medicine*, 37(4), 294-299. doi:10.1177/1049909119873626.

〔論文等（査読なし）〕

14. 佐野元洋:循環器看護における若手研究者への期待 心不全患者の在宅生活継続を支える地域連携促進ツールの開発.日本循環器看護学会誌,16(1),36-38,2020.
15. Kajiwara, K., Kako, J., Noto, H., Oosono, Y., Kobayashi, M. (2020). Zarit Burden Interview in the palliative care setting. *Supportive care in cancer*, 28(8), 3479. doi:10.1007/s00520-020-05471-4
16. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., Oosono, Y., Noto, H. (2020). Response to "Effect of Aromatherapy Massage on Quality of Sleep in the Palliative Care Ward:Randomized Controlled Trial". *Journal of pain and symptom management*, 60(2), e106-e107. doi:10.1016/j.jpainsymman.
17. Kajiwara, K., Kako, J., Kobayashi, M., Noto, H., Ogata, A. (2020). Effects of caregiver dementia training in caregiver-patient dyads. *International journal of geriatric psychiatry*, 35(11), 1424. doi:10.1002/gps.5399
18. Kako, J., Kajiwara, K., Kobayashi, M. (2020). Traditional Influences Within Studies of Nonpharmacological Interventions for Hiccups in Adults:A Systematic Review. *Journal of pain and symptom management*, 60(4), e34-e37. doi:10.1016/j.jpainsymman
19. Kajiwara, K., Kako, J., Kobayashi, M., Oosono, Y., Noto, H. (2020). Effectiveness of palliative care consultation service on caregiver burden over time between terminally ill cancer and non-cancer family caregivers. *Supportive care in cancer*. doi:10.1007/s00520-020-05814-1
20. Kajiwara, K., Kako, J., Kobayashi, M., Ogata, A. (2020). Questioning a randomized trial of a hospice video educational tool for patients with advanced cancer and their caregivers. *Cancer*, 126(20), 4617.
21. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., Ogata, A. (2021). Letter to the Editor in response to Greidanus et al., June 2020, "The Successful Return-To-Work Questionnaire for Cancer Survivors (I-RTW_CS):Development, Validity and Reproducibility". *The Patient*, 14(1), 139-140. doi:10.1007/s40271-020-00470-3
22. Kako, J., Kajiwara, K., Kobayashi, M. (2021). Could acupuncture be a treatment option for cancer patients with attitudinal barriers to pharmacological pain management? *Supportive care in cancer*, 29(1), 3. doi:10.1007/s00520-020-05712-6
23. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., Ogata, A. (2021). Regarding:Humayra Rashid et al. (2020) Returning to work in lung cancer survivors—a multi-center cross-sectional study in Germany. *Supportive Care in Cancer*. 10.1007/s00520-021-06007-0

〔単行書〕

24. 小林成光:緩和ケア病棟における睡眠の質へのアロマセラピー・マッサージの効果:ランダム化比較試験,日本緩和医療学会,ニューズレター,87,2020.
25. 小林成光:生活の視点で読み解く!今日の緩和ケア I 食べる「吃逆のケア」,がん看護,南江堂,25(5), 412-414,2020.
26. 小林成光:のぞいてみよう!国際学会最前線 vol.25 最新のがん看護における実践・研究を学ぶ,緩和ケア,青海社,431-433,2020.
27. 増島麻里子:日本がんリハビリテーション研究会(編),がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス.第2版,金原出版,2-309,2020.
28. 増島麻里子:エンド・オブ・ライフ期にあるがん患者の特徴と援助のポイント.鈴木久美,林直子,佐藤まゆみ(編),がん看護 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える,南江堂,85-91,2021.
29. Majima, T., Kusunoki, J., Otsuka, T.:The Role of the Home-Visit Nursing System in the Treatment of Terminal Cancer Patients in Japan. Michael Silbermann (Eds), *Palliative Care for Chronic Cancer Patients in the Community-Global Approaches and Future Applications*, Springer, 543-547, 2020.

〔学会発表抄録〕

30. 秋田新介,武居昌宏,増島麻里子,金井雅彦,緒方英之,徳元秀樹,山路佳久,窪田吉孝,三川信之:電気インピーダンス・スペクトロスコーピー・トモグラフィを用いたリンパ浮腫モニタ,第29回日本形成外科基礎学術集会プログラム・抄録集,2020.
31. 胡谷さやか*,田代理沙,増島麻里子:再発がん患者と家族のエンドオブライフに向けた話し合いの背景.第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集,143,2020.
*博士前期課程修了
32. 胡谷さやか*,田代理沙,増島麻里子:再発がん患者と家族の終生期に向けた話し合いの内容.第35回日本がん看護学会学術集会(Web開催),2021.
*博士前期課程修了
33. 楠潤子,眞嶋朋子:臨床看護師によるがん患者に対する補完・代替療法利用支援.第35回日本がん看護学会学術集会(WEB開催),2021.
34. 北得美佐子,角甲純,小林成光,森川みはる,月山淑,川俣知之,森田達也,木澤義之,恒藤暁,志摩泰夫,升川研人,宮下光令:遺族からみたホスピス・緩和ケア病棟による望ましい遺族ケアの提供に関する研究,緩和・支持・心のケア 合同学術大会,京都,2020.
35. 佐野元洋,岡田将,眞嶋朋子,小林欣夫:インターネットベースの心不全管理ツールを使用した在宅管理の実現可能性.第24回日本心不全学会学術集会,O23-2,2020.
36. 田代理沙,佐藤睦,増島麻里子:日本におけるエンドオブライフケアに関する研究の動向 日本語文献のマッピングレビュー.*Palliative Care Research*,15 Suppl, S 1242,2020.
37. 土屋雅子,増島麻里子,田崎牧子,森美紀:交流集会 心理介入を含む包括的リンパ浮腫予防支援プログラムの開発と展開.第35回日本がん看護学会学術集会(WEB開催),2021.
38. 土屋雅子,田崎牧子,森美紀,増島麻里子:地域におけるがん患者へのリンパ浮腫発現予防支援:看護師・行政保健師が考えるメリットとバリア.第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集,65,2020.
39. 中村伸枝,奥朋子,水野芳子,瀬尾智美,眞嶋朋子,仲井あや:10年以上の活動経験をもつ専門看護師の医療・社会情勢をふまえた活動や役割の変化.第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集,87,2020.
40. 橋爪由樹,小西美ゆき,増島麻里子:再発・転移期にあるがん患者とその家族が行ったエンドオブライフに向けた対話のテーマ.第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集,143,2020.
41. 橋之口園子*,小西美ゆき,眞嶋朋子:周術期外来でオリエンテーションを受けた患者の手術に向けた対処.千葉看護学会第26回学術集会講演集,39,2020.
42. 東辻朝彦,松戸麻華,岡田将,眞嶋朋子,小林欣夫:急性増悪を繰り返す心不全患者の急性期から回復期における苦痛の体験の調査.第17回日本循環器看護学会学術集会プログラム集,AP5,2020.
43. 眞嶋朋子,國武由香里,松戸麻華,増島麻里子,楠潤子,渡邊美和,長坂育代,大塚知子,岡本明美:がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムのための評価指標の開発.第

- 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集 (WEB 開催), 66, 2020.
44. 山川みやえ, 植木慎悟, 石丸美奈, 増島麻里子, 辻村真由子, 西村直子, 木村聡子, 土屋僚太郎, 渡邊浩子, 牧本清子: 交流集会 エビデンスを臨床現場で活用し浸透させるためのタスク・フォース: 日本の JBI センターの役割. 第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 55, 2020.
45. 渡邊美和, 岡本佐智子, 阿部由喜湖, 増島麻里子: 交流集会 進行がん患者と家族のアドバンスケアプランニングを促進する家族への看護プログラム. 第 35 回日本がん看護学会学術集会 (WEB 開催), 2021.
46. Higashitsuji, A., Matsudo, M., Majima, M. (2020). *Suffering and Attitudes Toward Death of Patients with Heart Failure from Acute Exacerbation to Early Post Discharge*. The 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong..
47. Madoka Matsudo, Tomoko Otsuka, Tomoko Majima, Mustika Pandu., Chirisrantie Effendy: Preliminary Study for Applicability Evaluation of Chemotherapy Documentation (PART.2): Difficulties and Problems of Nursing-Related Records of Cancer Chemotherapy in JAPAN. International Conference on Cancer Nursing, virtual conference, 2021
48. Okada, S., Umeno, F., Yamazaki, K., Iwahana, T., Kato, H., Sano, M., Higashitsuji, A., Ozaki, N., Ishibashi, M., Okada, C., Majima, T., Kobayashi, Y. (2020). Chiba Heart Failure Network for coordinated heart failure care involving hospital and home medical care providers: benefits and challenges. 第 24 回日本心不全学会学術集会, O27-3, 2020.
49. Tomoko Otsuka, Madoka Matsudo, Tomoko Majima, Mustika Pandu., Chirisrantie Effendy: Preliminary Study For Applicability Evaluation of Chemotherapy Documentation (PART.1): Relevance and Clarity of Nursing Related Records of Cancer Chemotherapy in JAPAN. International Conference on Cancer Nursing, virtual conference, 2021.
50. Tongtong J., Majima T., Tieying S.: The association between health relate hardiness, subjective well-being and posttraumatic growth among Chinese cancer patients: a structural equation, 196, International Conference on Cancer Nursing, virtual conference, 2021.
51. Tongtong J., Majima T., Tieying S.: Emotional experience of Chinese postoperative breast cancer patients undergoing radiotherapy, 第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 59, 2020
52. Shimizu, Y., Fujikawa, N., Kobayashi, M., Hirai, K., Iino, K., Osaka, W., Ichikawa, C., Kako, J., Kazama, I., Nagaoka, N., Hiasa, T., Kano, T., Yasui, H., Nomura, H., Kanda, K. (2021). *Systematic Reviews about Safe Handling of Hazardous drugs for Nurses: Japanese Guidelines for Preventing Occupational Exposure in Cancer Chemotherapy Drugs*. International Conference on Cancer Nursing, virtual conference, 2021

〔シンポジウム・招聘講演〕

53. 秋田新介, 武居昌宏, 増島麻里子, 金井雅彦, 緒方英之, 徳元秀樹, 山路佳久, 窪田吉孝, 三川信之: 電気インピーダンス・スペクトロスコピー・トモグラフィを用いたリンパ浮腫モニタ, 第 29 回日本形成外科基礎学術集会プログラム・抄録集, 69, 2020.
54. 眞嶋朋子: がん疾患を持つ循環器疾患患者のリハビリテーション, 第 2 回星海国際心血管病学会, 招聘, 中国 (大連) 2020.12 月 20 日.

〔受賞 (国内・国外)〕

55. International Lymphoedema Framework Japan 10th Anniversary Award (国内): Mariko Masujima
56. 2020 年度日本がん看護学会 学術奨励賞 教育・実践部門 受賞
増島麻里子, 阿部恭子, 奥朋子, 佐藤まゆみ, 菅原聡美, 埜口純子, 吉田千文, 渡邊美和, 楠潤子, 岡本明美, 縣靖子, 阿部由喜湖, 笠谷美保, 櫻井史子, 笹原奈津美, 鈴木のり子, 須田有美, 瀬尾智美, 田邊亜純, 土屋雅子, 長坂育代, 中村志穂, 西育子: 乳がん術後サポートグループ「ほっとカフェ」2020. (国内)

〔その他〕

57. 増島麻里子: 一般社団法人キャンサーフィットネス, リンパ浮腫患者スクール第 5 回. リンパ浮腫の診療報酬制度/セルフケアの必要性. (WEB 配信)
58. 増島麻里子: 認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン, 第 16 期乳がん体験者コーディネーター養成講座第 19 回, アドバンス・ケア・プランニング. (WEB 配信)
59. 増島麻里子: 一般財団法人ライフ・プランニング・センター, 2020 年度新リンパ浮腫研修 Step2, リ

ンパ浮腫指導。(WEB 配信)

60. 増島麻里子:千葉ヤクルト本社, 社員健康講座 働く私の健康を考える!.

老人看護学

〔原著〕

1. 石橋みゆき,雨宮有子,伊藤隆子,林弥生,吉田千文,諏訪部高江,平野和江,木暮みどり,丸谷美紀,神谷明美:療養の場の移行支援方法論構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化.千葉看護学会会誌,26(2),83-94,2021.
2. 深澤友里,山崎由利亜,山下裕紀,正木治恵:介護老人保健施設における慢性心不全を併存する認知症高齢者のセルフケア - オレムのセルフケア理論を活用して -. 千葉看護学会会誌,26(2),33-42,2021.
3. 深澤友里,正木治恵,河井伸子:診断後まもない2型糖尿病患者の教育入院の体験の意味づけ—成人学習にもとづいて—.日本糖尿病教育・看護学会誌,26(2),111-119,2020.
4. 野村陽子,勝田美穂,石橋みゆき,小山田恭子,池田真理,田中幸子:看護基礎教育に求められる政策コンピテンシー-「学士課程教育における公共政策学分野の参照基準」との比較から-.名寄市立大学紀要,第15巻,1-8,2021.
5. 多田信子,山崎由利亜,正木治恵:ケアを受けながら生きる要介護度の高い在宅高齢者の心の支え.日本看護学会論文集:在宅看護,50,3-6,2020.
6. 青柳寿弥,正木治恵:介護初期段階にある家族介護者向けの認知症ケア教材の開発～教材の開発過程に焦点をあてて～.千葉看護学会会誌,26(1),69-78,2020.
7. 中原美穂,正木治恵,河井伸子:診断後まもない2型糖尿病患者の教育入院の体験の意味づけ—成人学習にもとづいて—.日本糖尿病教育・看護学会誌,24(2),111-119,2020.

〔論文等 (査読あり)〕

8. 石橋みゆき,森本悦子,小山裕子:地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者の療養生活上の体験複合的な外来看護支援モデルの構築に向けて.老年看護学,25(1),113-122,2020.
9. 石井優香,深澤友里,大澤侑一,鳥海幸恵,正木治恵:身体疾患のために入院した認知症のある人の体験国内外の文献検討の結果から.老年看護学,25(2),80-88,2021.

〔論文等 (査読なし)〕

10. 大原裕子:糖尿病の治療とケアの基本.糖尿病ケア,17(5),6-9,2020.
11. 清水安子,正木治恵,柴山大賀,瀬戸奈津子,中山洋子:将来検討委員会活動報告 糖尿病教育・看護の核となる機能の明確化の取り組み,日本糖尿病教育・看護学会誌,24(1),35-39,2020.
12. 石橋みゆき,諏訪部高江:特集1【特別対談】老年看護と地域看護の専門家が考える「よい老人ホーム」とは?.あいらいふ,2020年6月号,12-15,2020.

〔報告書〕

13. 小松浩子,井上智子,西村ユミ,岩崎晋也,永瀬伸子,寶金清博,川口孝泰,正木治恵:提言 ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造.日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会,1-21,2020.
14. 片田範子,小松浩子,井上智子,西村ユミ,岩崎晋也,多久和典子,寶金清博,浅野みどり,内布敦子,太田喜久子,川口孝泰,田高悦子,野嶋佐由美,菱沼典子,正木治恵,南裕子,山本あい子,吉沢豊予子,綿貫成明:提言「地元創成」に実現に向けた看護学と社会の協働の推進.日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会,1-36,2020.
15. 正木治恵,五十嵐歩,田中和子,丸山優,宮本良子,綿貫成明:一般社団法人日本老年看護学会 将来構想検討プロジェクト報告書.1-12,2020.

〔単行書〕

16. 石橋みゆき:第4章高齢者看護の基本 3節 高齢者看護における倫理.堀内ふき,諏訪さゆり,山本恵

- 子(編),ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害.第 6 版,株式会社メディカ出版,189-200,2021.
17. 石橋みゆき:第 4 章終末期の看護 1 節-3 尊厳死と延命医療.堀内ふき,諏訪さゆり,山本恵子(編),ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践.第 5 版,株式会社メディカ出版,317-319,2021.

〔学会発表抄録〕

18. Kazuma, H., Miyuki, I., Miho, N., Harue, M.(2020) .*Experiences of older men under the age of seventy-five living alone with chronic illness in Japan*.Poster session presented at the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020, Kobe
19. Masaki, H., Hayashi, Y., Fukazawa, Y., Ohara, Y.:*Current situation and issues regarding care communication with foreign patients as perceived by Japanese nurses*. Poster session presented at Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020, Kobe
20. Ishii, C. *, Masaki, H., Nakahara, M. (2020).*Nursing care based on elderly patients' own culture in an acute hospital setting*. Poster session presented at the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020.Kobe
*博士前期課程修了
21. 藤村真紀*,石橋みゆき,佐々木ちひろ,山崎由利亜,正木治恵:特別養護老人ホーム入所中の認知症を有する高齢者の家族との面会の有り様.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,130,2020.
*博士前期課程修了
22. 山崎友宏*,大原裕子,正木治恵:慢性疾患の急性増悪により入院する高齢者の生活機能を支える看護援助.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,124,2020.
*博士前期課程修了
23. 渡邊裕子*,石橋みゆき,佐々木ちひろ,山崎由利亜,正木治恵:医療方療養病床に入院する高齢患者のケアにつなげる看護師同士の語り合い—その人らしい生活を支えるケアに着目して—.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,125,2020.
*博士前期課程修了
24. 池田真理,野村陽子,小山田恭子,石橋みゆき,田中幸子:看護基礎教育における実践型政策教育の可能性:政策的思考のできる看護職を育てるために.第 24 回日本看護管理学会学術集会抄録集,181,2020
25. 山崎由利亜:日本における認知症フレンドリーな取組に関する文献検討:第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,P10-066,2020.
26. 全美玲,佐々木ちひろ,石橋みゆき:高齢者ケア施設の看護・介護職が働き続けるための“支え”に関する国内外の文献検討:千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,28,2020.
27. 石井優香:一般病棟における認知症ケア上の困難から看護師に生じる感情-文献検討の結果から-.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,24,2020.
28. 佐久間葵*,正木治恵,石橋みゆき,大原裕子:看護職が関わる地域住民の集いの場における高齢者が経験している‘互助’.第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,P17-014,2020.
*博士前期課程修了
29. 田中幸子,西垣昌和,池田真理,石橋みゆき,小山田恭子,野村陽子:看護基礎教育における教育プログラムに必要な政策コンピテンシー～デルファイ法を用いた調査結果から～. 第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,P2-129,2020.
30. 石井優香:一般病棟の看護師の認知症ケア上の困難感に影響する要因:文献検討の結果から.第 40 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,P10-044,2020.
31. Huiching, Y., &Harue M.(2020).*Nursing practices supporting the decision-making for older terminally ill patients in ICUs:An integrative literature review*. E-Poster session presented at Taiwan International Nursing Conference 2020, Taipei.
32. Fukazawa, Y., Ishii, Y., Masaki, H.(2020). *What kinds of care can promote self-care for elderly people with dementia*. Poster session presented at 2020 Taiwan International Nursing Conference Endorsed by the ICN, 2020, Taiwan.
33. 正木治恵,五十嵐歩,田中和子,丸山優,宮本良子,綿貫成明:将来構想検討プロジェクト報告 日本老年看護学会の将来に向けた提言.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,60,2020.
34. 湯浅美千代,正木治恵,高見美保:自主企画 2 看護基礎教育において,老年看護学として,何をいかに教えるか.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,73,2020.

35. 永田文子**,正木治恵,川崎洋平:高齢者ケア施設における看取りケアを遺族が評価する尺度の信頼性と妥当性の検討.日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,133,2020.
**博士後期課程修了
36. 坂口(佐久間)葵*,石橋みゆき,坂東瑠美:地域住民の集いの場を創出するための看護職の在り方の一考察—都市部と島嶼部の 2 事例を比較して—.文化看護学会学術集会抄録集,16,2021.
*博士前期課程修了

〔シンポジウム・招聘講演〕

37. 日本老年看護学会第 25 回学術集会 シンポジウム 1
正木治恵:急性期病院における認知症ケア 本人重視の医療・ケアとは、急性期病院において認知症高齢者を擁護する」立場表明 2016 の具現化に向けて。
日本老年看護学会第 25 回学術集会抄録集,42,2020.
38. 文化看護学会第 12 回学術集会 鼎談
正木治恵:日本文化型看護学の序章から第一章 関係性について.プロシーディング,34-35,2020.

生体看護学

〔原著〕

1. Amemiya A., Noguchi H., Oe M., Takehara K., Ohashi Y., Suzuki R., Yamauchi T., Kadowaki T., Sanada H., Mori T. (2020). Factors associated with callus formation in the plantar region through gait measurement in patients with diabetic neuropathy:an observational case-control study. *Sensors*, 20(17), 10.3390/s20174863.
2. Matsumoto M., Fujioka M., Okada T., Naka Y., Amemiya A., Matsushima E., Tamai N., Miura Y., Nakagami G., Sanada H. (2020). Evaluation of bowel preparation before colonoscopy by ultrasonographic monitoring of colonic fecal retention:a case series. *Medical Ultrasonography*, 1-6, 2020.
3. 雨宮歩,中村伸枝,中島由紀子,仲井あや,下屋聡平:持続皮下インスリン注入療法 (CSID)を行う糖尿病をもつ小児の皮膚トラブルの実態.日本糖尿病教育・看護学会誌,24(2),103-109,2020.
4. 田原裕希恵,綿貫成明:離床センサーを使用している患者の苦痛 — 一般病床に勤務する看護師の自由記述についての計量テキスト解析 —.看護理工学会誌,8,38-46,2020.

〔報告書〕

5. 田中裕二:高次脳機能障害患者に対する看護援助技術の神経生理学的解析と国際比較.平成 28 年度～令和元年度科学研究費補助金 (基盤研究(C) 課題番号 16K11910) 研究成果報告書,2020.

〔単行書〕

6. 田中裕二: CHAPTER 8 エネルギー代謝.内山靖,藤井浩美,立石雅子(編),リハベーシック 生化学・栄養学.第 1 版,医歯薬出版(東京),pp.64-71,2020.

〔学会発表抄録〕

7. Komiyama, M., Okabe, M., Jitsuishi, T. (2021):Running courses of cutaneous nerves on the radial and dorsal surface of the forearm in pronated position. 第 126 回日本解剖学会総会・全国学術集会, in press.
8. Tahara, Y., Amemiya, A., Kase, R., Kitagawa, Y., Ogasawara, S., Ooka, Y., Kato, N., and Komiyama, M. (2020). The forefoot and toes are common sites for hand-foot skin reaction on the sole:an observational study. The 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference, 2020, Osaka.
9. Tahara, Y., Amemiya, A., Kase, R., Kitagawa, Y., Ogasawara, S., Ooka, Y., Kato, N., and

- Komiyama, M. (2021) Importance of checking tinea infections before tyrosine kinase inhibitor treatment. 2021 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting, (in press).
10. Kohno, K., Komiyama, M. (2021): Comparison of the distance from the puncture site to the superior gluteal nerve, artery and vein among three intramuscular gluteal injection sites. 第126回日本解剖学会総会・全国学術集会, in press.
 11. Suzuki, M., Komiyama, M. (2021): Prevalence and distribution of colic diverticulum in cadavers donated for dissection practice. 第126回日本解剖学会総会・全国学術集会, in press.
 12. 雨宮歩, 加瀬竜太郎, 菅原久純, 菅澤泰久, 箕輪隆城, 市田誠: 接触検知による点滴等自己抜去防止システムの開発ー誤報を減らすための日常生活動作の検証ー, 第8回看護理工学会学術集会講演抄録集, 29, 2020.
 13. 雨宮歩, 加瀬竜太郎, 北川柚香, 山川広樹, 菅原久純, 田原裕希恵, 桑原麻理子, 横尾英孝: 糖尿病神経障害をもつ患者における新しい靴製作初日と1か月経過後の足底にかかる圧力・せん断応力の比較. 第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 35, 2020.
 14. 雨宮歩, 横尾英孝, 加瀬竜太郎, 北川柚香, 熊谷仁, 小野啓, 横手幸太郎: 専門外来通院中の糖尿病患者における潜在的糖尿病性足潰瘍リスクの検討. 第58回日本糖尿病学会関東甲信越地方会抄録集, 86, 2021.
 15. 田原裕希恵, 小笠原定久, 興梶慧輔, 中村里美, 小林和史, 丸田享, 叶川直哉, 大岡美彦, 鈴木英一郎, 太和田暁之, 千葉哲博, 小宮山政敏, 加藤直也: 複数の臨床研究の患者選定における医療スタッフのコラボレーションの効果. 第22回日本肝がん分子標的治療研究会, 金沢, 2020.
 16. 田中楓美, 菅原久純, 雨宮歩: 健常者におけるスモールチェンジが睡眠に与える影響. 第8回看護理工学会学術集会講演抄録集, 30, 2020.
 17. 百瀬亜希帆*, 雨宮歩, 松島絵里奈, 加瀬竜太郎, 菅原久純: 緩衝素材を装着した寝衣の体圧分散効果の検証. 第8回看護理工学会学術集会講演抄録集, 50, 2020.
 18. 荒木紀音*, 松戸圭子, 兪文偉, 田中裕二: 植物パズル療法®が認知機能および上肢運動機能に及ぼす影響. 日本看護研究学会第46回学術集会講演集, 214, 2020.
 19. 菅原芳*, 菅原久純, 雨宮歩: 姿勢の違いによる日中の短時間仮眠の効果の検証. 第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 169, 2020.
 20. 茂木瑠菜*, 田原裕希恵, 加瀬竜太郎, 雨宮歩: 靴着用時における靴下の違いが足底部にかかる外力に与える影響. 第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会プログラム・抄録集, 165, 2020.
 21. 桑名健太, 吉田美香子, 雨宮歩, 金澤悠喜, 川島拓也, 楠田佳緒, 長江祐吾: ニーズ解釈のための網羅的な課題整理手法の提案. 第8回看護理工学会学術集会講演抄録集, 33, 2020.
 22. 實石達也, 澤井撰, 穂積崇史, Kitajo K., 菊池浩, 小宮山政敏, 山口淳: 白質解剖と神経追跡法による Default mode network (DMN) の神経基盤の構造学的解析. 第126回日本解剖学会総会・全国学術集会, in press, 2021.

*看護学部卒業

〔シンポジウム・招聘講演〕

23. 第59回日本生体医工学会大会 オーガナイズドセッション
研究者のワークライフバランスとキャリアパスについて考える
雨宮歩: 今まさに研究と育児の両立を試みている女性研究者の一例, 第59回日本生体医工学会大会抄録集, 54, 2020.
24. 看護薬理学カンファレンス 2021 in 札幌 看護理工学×看護薬理学が生み出すケアイノベーション
雨宮歩: 異分野融合研究による身体拘束削減への試み.
25. 第5回千葉大学グローバルプロミネント研究基幹シンポジウム
菅原久純, 雨宮歩, 長澤拓海, 高橋凌, 津村徳道: 生体情報が取得可能な見守りシステムの開発.

〔受賞 (国内・国外)〕

26. 日本看護科学学会 JANS40 大会賞 (国内)
雨宮歩, 加瀬竜太郎, 北川柚香, 山川広樹, 菅原久純, 田原裕希恵, 桑原麻理子, 横尾英孝: 糖尿病神経障害をもつ患者における新しい靴製作初日と1か月経過後の足底にかかる圧力・せん断応力の比較. 第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 35, 2020.
27. 日本フットケア・足病医学会 優秀演題賞 (国内)

茂木瑠菜*,田原裕希恵,加瀬竜太郎,雨宮歩:靴着用時における靴下の違いが足底部にかかる外力に与える影響.第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会プログラム・抄録集,165,2020.

*看護学部卒業

〔特許〕

28. 山下(雨宮)歩,菅原久純,市田誠,箕輪隆城,菅澤泰久:生体接触検知センサ及びこれを用いた生体接触検知装置.特願 2020-118115.
29. 山下(雨宮)歩,松島絵里奈,古川恭彦:褥瘡予防寝衣.特願 2020-163311.

リプロダクティブヘルス看護学

〔原著〕

1. Jin. Q, Mori, E, Sakajo.A. (2020). Nursing intervention for preventing postpartum depressive symptoms among Chinese women in Japan. *Japan Journal of Nursing Science, Volume 17, Issue 4*, doi:10.1111/jjns.12336
2. 前原邦江,坂上明子,岩田裕子,森恵美:高度生殖医療を受けた妊婦の不妊・治療経験の想起・統合を促す看護介入方法の検討.日本生殖看護学会誌,17(1),5-14,2020.
3. 津田充子,森恵美,坂上明子:第2子出産後1ヵ月間における経産婦の夫からのサポート体験.母性衛生,61(1),159-166,2020.
4. Iwata. H, Mori. E, Maehara. K, Harada. N, Saito. A. (2020). Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asia:a systematic review. *JBI Evidence Synthesis*, doi:10.11124/JBISRIR-D-19-00327

〔論文等(査読あり)〕

5. 原田奈美,青木恭子:アジアにおける出生前スクリーニング検査のインフォームドチョイスとその関連要因に関する文献レビュー.東邦大学健康科学ジャーナル,第4巻,3-13,2021.

〔論文等(査読なし)〕

6. 森恵美:超高齢出産・育児を多職種で支える.日本生殖看護学会誌,17(1),25-28,2020.

〔報告書〕

7. 前原邦江:生殖補助医療を受けた妊婦とかかわる看護職者に向けた研修プログラムの開発.第50回2019三菱財団研究・事業報告書,124,2020.

〔単行書〕

8. 森恵美:第1章 母性看護の基盤となる概念.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学1.第14版,医学書院,2-56,2021.
9. 森恵美:第4章 母性看護に必要な看護技術.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学1.第14版,医学書院,15-188,2021.
10. 岩田裕子:第6章 リプロダクティブヘルスケア.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学1.第14版,医学書院,317-326,2021.
11. 森恵美:第1章 子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,2-10,2021.
12. 森恵美:第2章 出生前からのリプロダクティブヘルスケア.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,14,2021.
13. 坂上明子,森恵美:第3章 妊娠期における看護.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,82-91,2021.

14. 森恵美:第4章 分娩期における看護.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,205-259,2021.
15. 森恵美,大月恵理子:第7章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,414-422,2021.
16. 森恵美:第7章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,465-488,2021.
17. 森恵美:付章 事例による看護過程の展開.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,567-568,2021.
18. 前原邦江:第6章 産褥期における看護.系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2.第14版,医学書院,367-376,2021.

[学会発表抄録]

19. 森恵美,小坂麻衣,前原邦江,齋藤明香,岩田裕子,木村佳代子,坂上明子,遠藤俊子:超高齢(45歳以上)妊娠出産と産後における看護職者等による多職種連携の経験.第22回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,66,2020.
20. 森田由香理*,森恵美:妊娠糖尿病後女性の産後3か月間における食生活の経験.第22回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,45,2020.
*博士前期課程修了
21. 北ありさ*,森恵美,岩田裕子:日本の父親は母乳育児の支援者となり得るのか—妊娠中の妻を持つ男性の母乳育児の認識に関する質的研究.第22回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,47,2020.
*博士前期課程修了
22. 阿部清香*,森恵美,岩田裕子:患者のセクシュアリティに関する看護実践に伴う障壁及びその障壁を克服した経験.第22回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,50,2020.
*博士前期課程修了
23. 関まりか*,森恵美,岩田裕子:妊婦の日常生活における身体活動の体験.第22回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,57,2020.
*博士前期課程修了
24. 谷井千恵*,森恵美,岩田裕子:切迫早産で入院した妊婦の夫の父親となる経験.第61回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集,200,2020.
*博士前期課程修了
25. 薄井真美,森恵美,遠山房絵:母乳育児を継続しながら職場復帰をする母親への看護.第38回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集,4,2021.
26. 和泉涼果,岩田裕子,木村佳代子:病院・診療所勤務経験がある開業助産師の経験.第38回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集,4,2021.
27. Maehara, K., Iwata, H., Kimura, K., Mori, E. (2020). *Experiences of transition to motherhood among pregnant women following assisted reproductive technology: A systematic review of qualitative evidence*. Poster session presented at Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020, Kobe.
28. 大平光子,渡邊聡美,奥村ゆかり,森恵美:助産学生の産婦ケア実践能力向上のためのハイブリット型シミュレーション教育.第40回日本看護科学学会学術集会プログラム集,24,2020.

[シンポジウム・招聘講演]

29. 第61回日本母性衛生学会総会 教育講演
森恵美:高年初産婦・超高年妊産婦の抱える健康問題とそのケア.
母性衛生,61(3),44-45,2020.
30. 岩田裕子:父親のメンタルヘルス,2020年度千葉県母性衛生学会セミナー,WEB開催,2021.2.20
31. 森恵美:助産ケアにおける看護倫理—生殖補助医療の受益者と倫理の視点から—,令和3年度日本母性看護学会セミナー「周産期の倫理と看護」,WEB開催,2021.3.13

健康管理看護学

〔原著〕

1. 姫野雄太:周術期外来における看護師の実践内容.千葉看護学会会誌,26(1),17-114,2020.
2. 路 璿,姫野雄太,北池正,池崎澄江:病院内看護研究指導者の看護研究能力と指導上の困難について.千葉看護学会会誌,26(1),19-27,2020.
3. 藤田淳子,福井小紀子,池崎澄江,辻村真由子:在宅の介護関連職における医療職との連携困難感尺度の開発.日本公衆衛生雑誌,67(11),819-827,2020.

〔報告書〕

4. 池崎澄江:特別養護老人ホームの終末期ケアにおける多職種連携とケアの質の評価に関する研究.平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業(基盤研究B)研究成果報告書,2020.
5. 池崎澄江:高齢者施設のエンドオブライフケアに関する日韓泰国際比較研究—アジア型教育プログラムに向けて—.トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム実施報告書,2020.

〔学会発表抄録〕

6. 路 璿,北池正,池崎澄江:病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラム実施の評価.日本看護研究学会雑誌(第46回学術集会抄録集),43(3),444,2020.
7. 芥田ゆみ,池崎澄江,北池正:病院に所属する専門看護師・認定看護師の持つ病院内外ネットワーク.千葉看護学会第26回学術集会講演集,34,2020.
8. 小松亮*,池崎澄江:二次救急医療機関における救急外来で勤務する看護師のマネジメント能力に関連する要因.千葉看護学会第26回学術集会講演集,40,2020.
*博士前期課程修了
9. 池崎澄江,谷本真理子,黒河内仙奈,芥田ゆみ,酒井郁子:特別養護老人ホームにおける看取り実践の質向上に向けた取り組み.第40回日本看護科学学会学術集会,東京,2020.
10. 野口麻衣子,五十嵐歩,目麻里子,福井小紀子,柏木聖代,池崎澄江,北村智美,稲垣安沙,小林弘美,山本則子:施設・在宅横断型質指標の開発 VENUS プロジェクト.第2回日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録,227,2020.

〔受賞(国内・国外)〕

11. 千葉看護学会第26回学術集会優秀演題賞
芥田ゆみ,池崎澄江,北池正:病院に所属する専門看護師・認定看護師の持つ病院内外ネットワーク.千葉看護学会第26回学術集会講演集,34,2020.(国内)

精神看護学

〔論文等(査読なし)〕

1. 田上美千佳:編集後記.精神科救急,23,117,2020.
2. 田上美千佳:編集後記.病院地域精神医学,63(1),61,2020.

〔報告書〕

3. 田上美千佳:精神科外来における患者と家族への包括的看護支援方法の開発(課題番号 15H05093) 2015～2019年度科学研究費(基盤研究(B))研究成果報告書,2020.
4. 野崎章子,森内加奈恵,小原泉:調査報告書「特定機能病院精神科病棟における看護実践状況と困難および教育ニーズ等に関する調査」(科学研究費 18K10306 基盤研究(C))
5. 野地有子,飯島佐知子,大友英子,小粥美香,谷井真弓,小寺さやか,小林康司,近藤麻理,坂元眞奈美,野崎章子,浜崎美子,別府佳代子,松岡光,水野雅子,溝部昌子,藤田さやか,宮越幸代,本杉樹子,若園尚美,相

原綾子,藤田比左子,炭谷大輔,中山健夫:令和 2 年度共同研究 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書 nGlobe セミナー.看護学教育研究共同利用拠点千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,1-140,2021.

[学会発表抄録]

6. Tanoue, M., Hirabayashi, M., Ohkubo, S. (2020). : Reviewing process of guidelines for severe psychiatric outpatient care in Japan. 28th European Congress of Psychiatry, Spain, (Online).
7. 渡邊章子,諏訪さゆり:中等度と重度のアルツハイマー型認知症高齢者の喪の過程ー長期ケア施設入所中に配偶者と死別した 3 事例の検討ー.第 21 回日本認知症ケア学会大会 プログラム・抄録集,261,2020.
8. 野地有子,藤田比左子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子:ICT を活用した Covid-19 への対応例:看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第 1 報 タイムラインに沿って.第 24 回日本看護管理学会学術集会抄録集,235,2020.
9. 藤田比左子,野地有子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子:ICT を活用した Covid-19 への対応例:看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第 2 報 参加者への導入と共創.第 24 回日本看護管理学会学術集会抄録集,248,2020.
10. Fujita, H., Noji, A., Sumitani, D., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A. (2020). *Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 1)*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
11. Sumitani, D., Fujita, H., Noji, A., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A. (2020). *Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 2)*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
12. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,浜崎美子,小林康司,松岡光:医療通訳士と看護師の協働ー看護師・病院として準備しておくべきことー.第 40 回日本看護科学学会学術集会,東京,2020.
13. 野崎章子,森内加奈恵:特定機能病院精神科病棟に関する横断的研究ー看護実践上の困難と教育ニーズー.第 33 回日本総合病院精神医学会総会,オンライン開催,2020
14. 野崎章子,森内加奈恵,小原泉:特定機能病院精神科病棟における多職種連携ー看護管理者を対象とする横断研究よりー.第 116 回日本精神神経学会学術総会,オンライン開催,2020
15. 谷川裕子,野崎章子:民間の塾に通う発達障害児・者を育てる親の抑うつ傾向に関する横断研究.第 61 回日本児童青年精神医学会総会,オンライン開催,2020

[シンポジウム・招聘講演]

16. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「看護職の多文化対応能力-対立・葛藤の対応」,2020.
17. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「看護職の多文化対応能力-差別・格差の対応」,2020.
18. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「インターカルチャー・コミュニケーション-外国人患者の臨床とコミュニケーション」,2020.
19. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「多文化環境における医療倫理」1.看護および医療倫理入門 2.多文化環境における倫理的対立 3.倫理相談/倫理委員会のための異文化スキル 4.終末期の意思決定における異文化的視点,2021.

地域看護学

〔原著〕

1. 坂井文乃,石丸美奈,宮崎美砂子:初めて育児に取り組む母親の育児に対するヘルスリテラシーの発展 産後半年間に焦点をあてて.千葉看護学会会誌,26(1),29-38,2020.
2. Suwa, S., Tsujimura, M., Ide, H., Kodate, N., Ishimaru, M., Shimamura, A., & Yu, W. (2020). Home-care Professionals' Ethical Perceptions of the Development and Use of Home-care Robots for Older Adults in Japan. *International Journal of Human-Computer Interaction*, 36(14), 1295-1303. doi:10.1080/10447318.2020.1736809
3. Suwa, S., Tsujimura, M., Kodate, N., Donnelly, S., Kitinoja, H., Hallila, J., Toivonen, M., Ide, H., Bergman-Kärpijoki, C., Takahashi, E., Ishimaru, M., Shimamura, A., Yu, W. (2020). Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Finland, Ireland, and Japan:A comparative questionnaire study. *Arch Gerontol Geriatr*, 91, 104178. doi:10.1016/j.archger.2020.104178
4. Tsujimura, M., Ide, H., Yu, W., Kodate, N., Ishimaru, M., Shimamura, A., & Suwa, S. (2020). The essential needs for home-care robots in Japan. *Journal of Enabling Technologies*, 14(4), 201-220. doi:10.1108/JET-03-2020-0008
5. Ide H., Kodate N., Suwa S., Tsujimura M., Shimamura A., Ishimaru M., Yu W. (2020). The ageing 'care crisis' in Japan:is there a role for robotics-based solutions? *International Journal of Care and Caring*, 5(1), 165-171. DOI:10.1332/239788220X16020939719606
6. 佐藤太一,石丸美奈,鈴木悟子:事例検討会における保健師の学習を促す方法の検討(第1報) 職場内教育(On-the-Job Training)としての事例検討会における保健師の学習の構造.千葉看護学会会誌,26(2),43-54,2021.
7. 鈴木久美子,宮崎美砂子,石丸美奈:地域包括支援センター看護職がとらえた認知症高齢者の家族介護にかかわる課題とそれに対する支援方法.千葉看護学会会誌,26(2),23-32,2021.
8. 花井詠子,石丸美奈,宮崎美砂子:市町村保健師と乳児を育てる母親のリスクコミュニケーションプログラムの作成ー自然災害に対する平時の備えの促進を目指してー.千葉看護学会会誌,26(2),11-21,2021

〔論文等(査読あり)〕

9. 岩瀬靖子,石丸美奈:災害時における被災自治体に所属する市町村保健師が直面した倫理的課題の特徴.千葉看護学会会誌,26(1),97-106,2020.
10. 佐藤太一,石丸美奈,鈴木悟子:事例検討会における保健師の学習を促す方法の検討(第2報)事例検討会における保健師の学習プロセス.千葉看護学会会誌,26(2),95-104,2021.

〔論文等(査読なし)〕

11. 石丸美奈:協働が生み出す知ー看護学の広まりと深まりー.千葉看護学会会誌,26(2),107-109,2021.

〔報告書〕

12. 押方秀樹,高橋秀治:住民とともにつくる高血圧予防を目指した健康番組 日之影町の取り組み.保健師ジャーナル,76(8),670-675,2020.

〔単行書〕

13. 石丸美奈:第1章 発達段階の特性に応じた活動論,II成人・高齢者保健福祉活動,1.健康づくり活動,2.生活習慣病予防活動.最新公衆衛生看護学第3版(2021年版)各論1(宮崎美砂子他編),日本看護協会出版会,83-129,2021.
14. 佐藤太一:第1章 公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護とは何か 4. 公衆衛生看護の活動目標 事例1 生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み.宮崎美砂子他(編)最新公衆衛生看護学 第3版(2021年版)総論,日本看護協会出版会,10,2021.
15. 鈴木久美子:第1章 公衆衛生看護学概論 II 公衆衛生看護の歴史,1.保健婦規則制定以前の地域における看護活動.宮崎美砂子他(編)最新公衆衛生看護学 第3版(2021年版)総論,日本看護協会出版会,25-32,2021.

〔学会発表抄録〕

16. 高橋秀治,石丸美奈:壮年期未婚男性の生活習慣病予防に関するセルフケア行動.文化看護学会学術集会プロシーディング,12回,54,2020.
17. 松井理恵*,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの有効性と実用性の検証(第1報)保健師による評価.文化看護学会学術集会プロシーディング,12回,50,2020.
*博士後期課程修了生
18. 松井理恵*,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの有効性と実用性の検証(第2報)保健推進員による評価.文化看護学会学術集会プロシーディング,12回,51,2020.
*博士後期課程修了生
19. 井口紗織,石丸美奈:保健師の災害時保健活動経験に対する意味づけ 文献レビュー 被災地の市町村保健師と派遣保健師の比較.文化看護学会学術集会プロシーディング,12回,49,2020.
20. Takahashi, S., Ishimaru, M. (2020). Self-care behavior for lifestyle-related disease prevention of unmarried middle-aged men:An interview survey of male co-workers, *Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020*, 86.
21. Takahashi, S., Matsumoto, N., Kushima, A., Ohikata, H., Maeda, J. (2020). Development of exercises incorporating movements of Kagura, a traditional performing art, *Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020*, 72.
22. Iguchi, S., Ishimaru, M. (2020). Comparing meaning-making in disaster health activities between public health nurses in affected areas and dispatched public health nurses, *Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020*, 97.
23. Hotta, K., Ishimaru, M. (2020). Literature review on aspects of senior citizens who engage in volunteer communities of practice, *Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020*, 78.
24. Ishimaru, M., Iwase, S. (2020). Key characteristics of social resources related to health and welfare developed in the community:Scoping review, *Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020*, 90.
25. 石丸美奈,永田亜希子,坂井文乃,佐藤太一,鈴木悟子:認知症への対応を学び合うシミュレーション教材の映像視聴後の学習の様相.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,126,2020.
26. 佐藤太一,石丸美奈,鈴木悟子:保健師の学習に影響を与える要因としての事例検討会の過程.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,136,2020.
27. 鈴木悟子:30歳代勤労男性のメタボリックシンドローム予備群・該当者の健康学習サイクルの要素.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,83,2020.
28. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,坂井文乃,杉田由加里,栗栖千幸,土屋裕子,佐藤太一:予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用の実際と影響.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,134,2020.
29. 高橋秀治,石丸美奈:壮年期男性の生活習慣改善を促進する社会的支援に関するスコーピングレビュー.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,84,2020.
30. 時田礼子,石丸美奈,宮崎美砂子:健康教育参加者が学習内容を波及させる過程の解明に向けた枠組みの作成.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,85,2020.
31. 細谷紀子*,石丸美奈,宮崎美砂子:発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムにおけるレジリエンス向上の評価.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,100,2020.
*博士後期課程修了生
32. 松井理恵*,石丸美奈,宮崎美砂子:地域の健康づくりを通じた保健推進員のエンパワメント-保健推進員へのグループインタビューから-.日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,130,2020.
*博士後期課程修了生
33. 石丸美奈,鈴木悟子,辻村真由子,諏訪さゆり,飯野理恵,石橋みゆき,宮崎美砂子:当事者主体の地域包括ケアを学修するためのシナリオを用いた教育手法の可能性(ワークショップ).日本地域看護学会学術集会講演集,第23回,62,2020.
34. 松井理恵*,石丸美奈,宮崎美砂子:保健推進員との協働における課題や困難を乗り越えるための協働方法-保健推進員育成担当保健師の立場から-.千葉看護学会第26回学術集会講演集,29,2020.
*博士後期課程修了生

35. 井口紗織,石丸美奈:被災地保健師の外傷後成長のきっかけとなった災害時保健活動:文献レビュー. 千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,30,2020.
36. 長山莉久里,石丸美奈:在日外国人結核患者の支援関係者の連携強化のための保健所保健師の活動方法.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,31,2020.
37. 竹内教子,石丸美奈,鈴木悟子:日本における妊娠糖尿病と診断された女性の産後の保健行動に関する文献検討.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,33,2020.
38. 佐藤太一,田中貴大,松井理恵*:交流集会 修士論文のジャーナル論文文化に伴う悩みと乗り越え方-若手研究者 3 人の経験から-.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,47,2020.
*博士後期課程修了生
39. Iwase, S. (2020). Ethical Decision-Making Competencies in Public Health Nursing Practice During Natural Disasters. *The 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.*
40. 山川みやえ,植木慎吾,石丸美奈,増島麻里子,辻村真由子,西村直子,木村聡子,土屋僚太郎,渡邊浩子,牧本清子:エビデンスを臨床現場で活用し浸透させるためのタスク・フォース:日本 JBI センターの役割.第 40 回日本看護科学学会学術集会,55,2020.
41. 吉田靖代,星合裕美,笠真帆,石丸美奈:新任期保健師を指導する立場にある保健師が考える人材育成.日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,第 9 回,175,2021.
42. 佐藤太一,石丸美奈:事例検討会による保健師の OJT に関わる要素.日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,第 9 回,178,2021.
43. 松井理恵*,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを促す協働モデルの開発-実践照合による内的妥当性検討-.日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,第 9 回,405,2021.
*博士後期課程修了生
44. 吉田靖代,星合裕美,笠真帆,石丸美奈:新任期保健師を指導する立場にある保健師が考える人材育成.日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,第 9 回,414,2021
45. 荒井菜月,石丸美奈,鈴木悟子,佐藤太一,岩瀬靖子:公衆衛生政策に照らして検討し「保健師と推進員の相互の関わり方」の研究動向.第 13 回文化看護学会学術集会,19,2021.

[シンポジウム・招聘講演]

46. 千葉看護学会第 26 回学術集会 会長講演
石丸美奈:協働を通じて生み出す知-看護学の広がりと深まり-.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,10-11,2020.

[受賞 (国内・国外)]

47. 千葉看護学会第 26 回学術集会ポスター優秀発表賞:松井理恵*,石丸美奈,宮崎美砂子:保健推進員との協働における課題や困難を乗り越えるための協働方法-保健推進員育成担当保健師の立場から-.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,29,2020. (国内)
*博士後期課程修了生

訪問看護学

[原著]

1. Suwa S., Tsujimura M., Ide H., Kodate N., Ishimaru M., Shimamura A., Yu W. (2020). Home-care professionals' ethical perceptions of the development and use of home-care robots for older adults in Japan. *International Journal of Human-computer Interaction*, 36(4), 1295-1303.
2. Suwa S., Tsujimura M., Kodate N., Donnelly S., Kitinoja H., Hallila J., Toivonen M., Ide H., Bergman-Kärpijoki K., Takahashi E., Ishimaru M., Shimamura A., Yu W. (2020). Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Finland, Ireland, and Japan:A comparative questionnaire study. *Archives of gerontology and geriatrics*, 91, 104178-104178.

3. Tsujimura M., Ide H., Yu W., Kodate N., Ishimaru M., Shimamura A., Suwa S. (2020). The essential needs for home-care robots in Japan. *Journal of Enabling Technologies*, 14(4), 201-220.
4. Ide H., Kodate N., Suwa S., Tsujimura M., Shimamura A., Ishimaru M., Yu W. (2020). The ageing 'care crisis' in Japan: is there a role for robotics-based solutions? *International Journal of Care and Caring*, 5(1), 165-171.2020. DOI:10.1332/239788220X16020939719606
5. 佐藤愛, 諏訪さゆり: 中途障害児を養育する母親の経験. 千葉看護学会誌, 26(1), 59-68, 2020.
6. 藤田淳子, 福井小紀子, 池崎澄江, 辻村真由子: 在宅の介護関連職における医療職との連携困難感尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌, 67(11), 819-827, 2020.
7. 岡本聡美, 小山幸代: 一般病棟における認知症患者の攻撃的行動を未然に防ぐ支援の検討 (第1報) - 攻撃的行動の要因に焦点を当てて -. 日本早期認知症学会誌, 14(1), 27-35, 2021.

〔論文等 (査読あり)〕

8. Iida K., Ishimaru M., Tsujimura M., Wakasugi A. (2020). Experiences of advance care planning for community-dwelling older people: a systematic review protocol. *JBI Evidence Synthesis*. 18(4), 807-813, 2020.

〔論文等 (査読なし)〕

9. 辻村真由子: イギリスの在宅における排泄ケア - District Nurse の活動を中心に -. 文化看護学会誌, 12(1), 51-53, 2020.

〔単行書〕

10. 佐藤美穂子, 諏訪さゆり, 山辺智子, 湯本品代: 日本訪問看護財団(監修), イラストで学ぶ認知症の人の生活支援. ワールドプランニング, 2020.
11. 諏訪さゆり: 第18章 介護をめぐる臨床倫理<家族支援>. 日本臨床倫理学会(編), 臨床倫理入門Ⅱ 各科領域の臨床倫理. へるす出版, 137-143, 2020.
12. 辻村真由子: 高齢者を支える社会資源. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害. 第6版, メディカ出版, 112-119, 2021.
13. 湯本品代: 高齢者看護・介護とテクノロジー. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害. 第6版, メディカ出版, 119-125, 2021.
14. 辻村真由子: 地域包括ケア. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害. 第6版, メディカ出版, 128-135, 2021.
15. 諏訪さゆり: 在宅. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害. 第6版, メディカ出版, 135-143, 2021.
16. 諏訪さゆり: 睡眠障害. 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践. 第5版, メディカ出版, 103-113, 2021.
17. 諏訪さゆり: 認知症. 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践. 第5版, メディカ出版, 208-249, 2021.
18. 諏訪さゆり: うつ病. 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践. 第5版, メディカ出版, 250-256, 2021.
19. 諏訪さゆり: Q1-16 睡眠障害がある場合の家族への助言はどのように行うか. 家族支援ガイドライン作成委員会 (監修), 矢吹知之, 長田久雄, 加藤伸司 (編), 認知症の人と家族を支えるガイドブック. 第1版, ワールドプランニング, 62-63, 2021.
20. 辻村真由子: Q1-18 便秘や排尿障害への対応の助言はどのように行うか. 家族支援ガイドライン作成委員会 (監修), 矢吹知之, 長田久雄, 加藤伸司 (編), 認知症の人と家族を支えるガイドブック. 第1版, ワールドプランニング, 66-67, 2021.
21. 辻村真由子: Q1-19 褥瘡の予防への助言はどのように行うか. 家族支援ガイドライン作成委員会 (監修), 矢吹知之, 長田久雄, 加藤伸司 (編), 認知症の人と家族を支えるガイドブック. 第1版, ワールドプランニング, 68-69, 2021.
22. 諏訪さゆり: Q1-20 服薬についての助言はどのように行うか. 家族支援ガイドライン作成委員会 (監修), 矢吹知之, 長田久雄, 加藤伸司 (編), 認知症の人と家族を支えるガイドブック. 第1版, ワールドプランニング, 70-71, 2021.

[学会発表抄録]

23. 岩田尚子, 諏訪さゆり: 外来化学療法を受ける高齢がん患者への訪問看護導入の検討に関する全国調査 専門看護師と認定看護師の特徴に焦点を当てて. 第 25 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 70, 2020.
24. 湯浅美千代, 島田広美, 杉山智子, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 永井優子: 急性期治療を行う病院の看護師に求められる認知症看護の能力ー認知症高齢者を地域で支える看護職の視点からー. 千葉看護学会 第 26 回学術集会講演集, 25, 2020.
25. 石丸美奈, 鈴木悟子, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 石橋みゆき, 宮崎美砂子: 当事者主体の地域包括ケアを学修するためのシナリオを用いた教育手法の可能性. 日本地域看護学会第 23 回学術集会講演集, 62, 2020.
26. 柴崎祐美, 湯本晶代: 認知症を有する高齢知的障害者への支援に関する文献検討. 日本認知症ケア学会誌, 19(1), 175, 2020.
27. 得居みのり: 認知症を持つ高齢修道女を支えるケア 2 事例の分析から. 日本認知症ケア学会誌, 19(1), 155, 2020.
28. 奈良間美保, 中山美由紀, 山内文, 茂本咲子, 辻村真由子, 二宮啓子, 深堀浩樹, 古瀬みどり, マルティネス真喜子, 伊藤弘子. 【編集委員会企画】学会発表から論文に投稿しよう! ~実践編~. 日本家族看護学会 第 27 回学術集会抄録集, 116, 2020.
29. 岩田尚子, 諏訪さゆり: 「外来化学療法を受ける高齢がん患者と共に訪問看護の導入を検討するための指針」の実行可能性の検討ー「訪問看護の導入を検討する対象」に焦点を当ててー. 第 25 回日本緩和医療学会学術大会プログラム・抄録集, P_4-9-11, 2020.
30. 吉本照子*, 辻村真由子, 尾崎直子, 吉田靖子, 山崎潤子, 小宮山日登美, 権平くみ子: 訪問看護管理者のための新人訪問看護師育成支援ツールの開発. 第 10 回日本在宅看護学会学術集会講演集, 103, 2020.
*本研究科教員
31. Zhou L., Suwa S., Obayashi K., & Masuyama S. (2020). Relationship between daily life conditions and sleep characteristics of older people in a long-term care facility. 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference, 2020.
32. 佐伯恭子*, 諏訪さゆり: 認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮に関する現状と課題. 第 32 回日本生命倫理学会年次大会予稿集, 94, 2020.
*博士後期課程修了
33. 岩田尚子, 諏訪さゆり: 外来化学療法室の看護師による高齢がん患者への訪問看護導入の検討の特徴に関する全国調査. 第 40 回日本看護科学学会学術集会講演集, P15-003, 2020.
34. 山川みやえ, 植木慎悟, 石丸美奈, 増島麻里子, 辻村真由子, 西村直子, 木村聡子, 土谷僚太郎, 渡邊浩子, 牧本清子. エビデンスを臨床現場で活用し浸透させるためのタスク・フォース: 日本の JBI センターの役割. 第 40 回日本看護科学学会学術集会講演集, 220, 2020.
35. 諏訪さゆり: 高齢者の在宅介護ロボットの研究開発と社会実装における倫理的課題ーフィンランド, アイルランド, 日本との国際共同研究ー. 第 4 回地域包括ケアのための未来型テクノロジー研究会, 2020.

[シンポジウム・招聘講演]

36. 諏訪さゆり: 高齢者の在宅介護ロボットの研究開発と社会実装における倫理的課題ーフィンランド, アイルランド, 日本との国際共同研究ー. 第 4 回地域包括ケアのための未来型テクノロジー研究会, 2020.
37. 辻村真由子: 地域で活躍できる看護師の育成ー国内外の知見からー. 聖路加国際大学 教育センター みんなで考える看護基礎教育 看護基礎教育カリキュラム改正企画 地域・在宅看護論で何を変えるか?, 2020.
38. Tsujimura M.: Home care nursing in Japan. “SeAMK School of Health Care and Social Work – International Week”, online, February 19th, 2021.

理論看護学

〔論文等（査読なし）〕

1. 齊藤しのぶ:〈特集;透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの〉1.総論(1) 看護職に対するスペシャリスト教育の方向性.臨牀透析,3月号,2021.

〔学会発表抄録〕

2. Wazumi, Y., Saitou, S., Yamamoto, T., & Chien, S.C. (2020). *The development of a new nursing technique education system through visualization of "vital power"*. NETNEP2018 -7th International Nurse Education Conference, 2020.
3. Chien, S.C., Wazumi, Y., & Katagiri, T., Maruyama, K., Saitou, S., & Utagawa, Y. (2020). *Relationships of lifestyle and life balance on autonomic nerves for middle age working women with presymptomatic disease*. 2020 Taiwan International Nursing Conference endorsed by ICN in Taipei, Taiwan.
4. Wazumi, Y., Saitou, S., Yamamoto, T., & Chien, S.C. (2020). *Establishment of nursing discipline through analysis of change of the degree name in Japan*. Nursing Education Research Conference 2020 of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing.
5. 齊藤しのぶ,和住淑子,飛世真理子:初めて模擬患者に対して看護技術を適用する場面における看護初学者の対象認識および表現の特徴.第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会抄録集,63,2021.
6. 飛世真理子,齊藤しのぶ:周術期実習における臨地実習指導者の行動の解明-術直後の患者への看護実践に焦点をあてて-.第40回日本看護科学学会学術集会講演集,P2-038,2020.

〔シンポジウム・招聘講演〕

7. 第40回日本看護科学学会ランチョンセミナー 依頼公演
橋内伸介:『脳神経救急・集中治療の新しいモニタリング指標』-患者の予後に関わる異常脳波・ナースがそれを見つければ患者の未来が変わる！？-.第40回日本看護科学学会学術集会講演集,21,2020.

看護教育学

〔原著〕

1. 須藤栞,中山登志子:手術看護に携わる看護師の学習ニーズの特徴-手術室経験年数に焦点を当てて-.千葉看護学会会誌,26(2),65-72,2021.
2. 伊勢根尚美,中山登志子,舟島なをみ:病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度の開発-学生の実習目標達成と患者の療養生活の質保証に向けて-.看護教育学研究,30(1),33-47,2021.

〔論文等（査読なし）〕

3. 中山登志子,舟島なをみ,杉森みど里:看護教育学発展の歴史と学術集会-学術集会,基調講演のテーマに見る看護教育学の発展-.看護教育学研究,30(1),1-8,2021.

〔単行著〕

4. 舟島なをみ監修,亀岡智美,鈴木美和,永野光子,中山登志子,服部美香,宮芝智子,山下暢子,山澄直美,横山京子,植田満美子,鹿島嘉佐音*,金谷悦子:看護学教育における授業展開-質の高い講義・演習・実習の実現に向けて-,第2版.医学書院,2020.

*本研究科技術職員

〔学会発表抄録〕

5. Nakayama, T., Funashima, N. (2020). *Graduate Students' Perceptions of Quality of the Teaching-learning Process on Master's Nursing Programs in Japan*. Poster session at Sigma's virtual 31th International Nursing Research Congress 2020, Online.
6. 相葉美佑*, 中山登志子, 佐藤葉:病院に就業する看護師の臨死期の看護に伴う経験-先行研究の分析を通して-.第26回千葉看護学会学術集会 (Web開催), 2020.
*看護学部卒業
7. 中山登志子, 舟島なをみ:看護学の修士論文指導に携わる教員が直面する問題.第40回日本看護科学学会学術集会抄録集,124,2020.
8. 植田満美子, 中山登志子, 舟島なをみ:潜在看護師が望む復職支援-看護継続教育としての復職の検討-.第40回日本看護科学学会学術集会抄録集,107,2020.
9. 伊勢根尚美, 中山登志子, 舟島なをみ:病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度の開発.第40回日本看護科学学会学術集会抄録集,113,2020.
10. Ueda, M., Nakayama, T., Funashima, N. (2020). *Preparations of Inactive Nurses to Return to Nursing:A Qualitative Study*. Poster session at The 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference 2020, Online.
11. Sutou, S., Nakayama, T., Funashima, N. (2020). *Learning Needs of Perioperative Nurse in Japan from the Viewpoint Work Position -Toward Developing Continuing Professional Education Programs -*. Poster session at The 10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia Region Conference 2020, Online.

災害看護学

〔原著〕

1. 坂井文乃,石丸美奈,宮崎美砂子:初めて育児に取り組む母親の育児に対するヘルスリテラシーの発展-産後半年間に焦点をあてて-.千葉看護学会会誌,26(1),29-38,2020.
2. 花井詠子,石丸美奈,宮崎美砂子:市町村保健師と乳児を育てる母親のリスクコミュニケーションプログラムの作成-自然災害に対する平時の備えの促進を目指して-.千葉看護学会会誌,26(2),11-21,2021.
3. 鈴木久美子,宮崎美砂子,石丸美奈:地域包括支援センター看護職がとらえた認知症高齢者の家族介護にかかわる課題とそれに対する支援方法.千葉看護学会会誌,26(2),23-32,2021.

〔論文等 (査読あり)〕

4. Uemura, N., Miyazaki, M., Okuda, H., Haruyama, S., Ishikawa, M., Kim, Y. (2020). Competency framework, methods, evaluation, and outcomes of natural disaster preparedness and response training:a scoping review protocol. *JBIE evidence synthesis*, 19(1), 208-214.

〔論文等 (査読なし)〕

5. 宮崎美砂子:新型コロナウイルス感染症蔓延下における災害時の保健活動.健康 de ねっと,秋田県市町村保健活動連絡協議会,7-9,2020.

〔報告書〕

6. 宮崎美砂子,奥田博子,雨宮有子,時田礼子,相馬幸恵,山田祐子,藤原真里:災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究.令和2年度厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業,研究代表者 宮崎美砂子,総括・分担研究報告書,2021.

〔単行書〕

7. 宮崎美砂子:地域で暮らす人々の健康づくりと看護 地域看護.清水洋行,鈴木雅之他 (編),ホリス

ティック地域学.学術研究出版,160-161,2020.

8. 宮崎美砂子:第1章 公衆衛生看護学概論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第3版 2020年版,日本看護協会出版会,2-24,2020.
9. 宮崎美砂子:第2章 地区活動論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第3版 2020年版,日本看護協会出版会,122-145,2020.
10. 宮崎美砂子:第4章 公衆衛生看護学研究.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第3版 2020年版,日本看護協会出版会,322-358,2020.
11. 宮崎美砂子:第3章 公衆衛生看護管理活動論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学各論 2.第3版 2020年版,日本看護協会出版会,194-217,227,2020.
12. 宮崎美砂子 (監修)・佐藤奈保 (監修協力):こども衛生学.新星出版社,2021.

〔学会発表抄録〕

13. 松井理恵,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの有効性と実用性の検証(第1報) 保健師による評価.第12回文化看護学会学術集会プロシーディング,50,2020.
14. 松井理恵,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの有効性と実用性の検証(第2報) 保健推進員による評価.第12回文化看護学会学術集会プロシーディング,51,2020.
15. 細谷紀子,石丸美奈,宮崎美砂子:発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムにおけるレジリエンス向上の評価.第23回日本地域看護学会学術集会講演集,100,2020.
16. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,坂井文乃,杉田由加里,栗栖千幸,土屋裕子,佐藤太一:予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用の実際と影響.第23回日本地域看護学会学術集会講演集,134,2020.
17. 時田礼子,石丸美奈,宮崎美砂子:健康教育参加者が学習内容を波及させる過程の解明に向けた枠組みの作成.第23回日本地域看護学会学術集会講演集,85,2020.
18. 松井理恵,石丸美奈,宮崎美砂子:地域の健康づくりを通じた保健推進員のエンパワメント 保健推進員へのグループインタビューから,第23回日本地域看護学会学術集会講演集,130,2020.
19. 宮崎美砂子,奥田博子,春山早苗,石川麻衣,植村直子,金吉晴:実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドラインの作成と精練.第79回日本公衆衛生学会総会抄録集,434,2020.
20. 奥田博子,宮崎美砂子,春山早苗,石川麻衣,植村直子,金吉晴:実務保健師の災害時対応能力育成のための研修ガイドラインによる研修効果 A 県の検証.第79回日本公衆衛生学会総会抄録集,434,2020.
21. 深谷真子,池田久絵,中根恵美子,竹島久美子,宮崎美砂子:実務保健師の災害時対応能力育成のための研修ガイドラインによる研修効果 B 県の検証.第79回日本公衆衛生学会総会抄録集,434,2020.
22. 植村直子,宮崎美砂子,奥田博子,春山早苗,石川麻衣,金吉晴:公衆衛生従事者を対象とした国内外の災害研修方法の概観.第79回日本公衆衛生学会総会抄録集,441,2020.
23. 松井理恵,宮崎美砂子,石丸美奈:保健推進員のエンパワメントを促す協働モデルの開発 実践照合による内的妥当性検討.第79回日本公衆衛生学会総会抄録集,405,2020.
24. 中島麻紀,宮崎美砂子,佐藤奈保:在日インドシナ難民定住者の子どもの人的資本の育成過程とウェルビーイングの関係の検討.第35回日本国際保健医療学会,2020,大阪.
25. Konno Anna, Kobayashi Kyoko, Nishigaki Kaori, Sato Naho, Fukahori Hiroki, Kato Yukiko, Ikeda Mari, Hohashi Naohiro, Ota Erika. (2020). *Cognitive Behavioral therapy for family to prevent child maltreatment:a systematic review protocol*. 第40回日本看護科学学会学術集会,2020,東京.
26. 宮崎美砂子:統括的立場から健康危機管理における保健師の役割と人材育成体制構築における課題と支援のポイント. 全国保健師長会企画ワークショップ 地域に責任を持つ保健師の伝承～管理期の保健師による“みる・つなぐ・うごかす・つたえる”を实践活動から考える～.第9回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,131,2021.

〔シンポジウム・招聘講演〕

27. 災害治療学シンポジウム in 千葉 [シンポジウム]

- 宮崎美砂子:災害時における二次的健康被害防止と体制整備.災害治療学シンポジウム in 千葉,2020.
28. 令和2年度北海道・東北ブロック保健師等研修会【講演I】
宮崎美砂子:災害時の保健活動を推進するための保健師の役割と活動体制の構築.日本公衆衛生協会主催,令和2年度地域保健総合推進事業,令和2年度北海道・東北ブロック保健師等研修会,岩手県,2020.
29. 令和2年度全国保健師長会南関東・東京ブロック研修会【講演】
宮崎美砂子:災害に強いまちづくり～保健師活動における災害時の自治体の応援派遣・受援について～.令和2年度全国保健師長会南関東・東京ブロック研修会,横浜市,2020.

病院看護システム管理学

〔原著〕

1. Watanabe, Y., Claus, S., Nakagawa, T., Yasunami, S., & Teshima, M. (2021). A study for the evaluation of a safety education program me for nursing students: discussions using the QSEN safety competencies. *Journal of Research in Nursing*, Volume 26, Issue1-2, 97-115. doi.org/10.1177/1744987121994859

〔学会発表抄録〕

2. 開保津貴子*,河嶋知子,手島恵:セカンドレベル研修を受講した看護師長の研修転移促進の取組ー病院と病院グループ本部の協働による継続教育強化ー.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,240,2020.
*修士課程修了
3. 田中聡美*,高草木伸子,手島恵:中堅看護師の課題解決能力開発にむけた教育支援ーアクションラーニングを用いた課題解決型プロジェクトー.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,263,2020.
*修士課程修了
4. 山田楼子*,白川秀子,手島恵:看護補助者と協働するための看護師への教育.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,300,2020.
*修士課程修了
5. 大内明*,齊藤大介,手島恵:働きやすい職場づくり-救命救急センターにおけるワーク・エンゲイジメントに着目した取り組みー.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,303,2020.
*修士課程修了

〔シンポジウム・招聘講演〕

6. 手島恵:日本の看護におけるエビデンスの活用ー実践の可視化.NursingNow:看護の力で未来を創る(WEB開催),NursingNowプログラム集,10,2021.

〔受賞(国内・国外)〕

7. 第24回日本看護管理学会学術集会ポスター賞
開保津貴子*,河嶋知子,手島恵:セカンドレベル研修を受講した看護師長の研修転移促進の取組ー病院と病院グループ本部の協働による継続教育強化ー.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,240,2020.
*修士課程修了
8. 日本看護協会 Nursing Now 賞,渡邊美香:「セルフケア看護の実践によるハピネス」,2021.

地域看護システム管理学

〔原著〕

1. 飛田篤子*,吉本照子**:在宅終末期がん療養者が他者との関係性の中で主体性を発揮していく過程を支える訪問看護モデルの有用性・実用可能性の検証.千葉看護学会会誌,26(1),87-96,2020.
*博士後期課程修了 **本研究科教員
2. 小熊亜希子,吉本照子*,飯野理恵:介護老人保健施設における看護師の誤嚥性肺炎の早期発見,治療の場の決定に向けた判断の過程.千葉看護学会会誌,26(2),55-63,2021.
*本研究科教員

〔論文等（査読なし）〕

3. 杉田由加里:【カリキュラム編成の指針】看護系大学における人材養成に関する質保証 指定規則の改正をふまえて.看護教育,61(8),670-676,2020.
4. 杉田由加里:看護学実習ガイドラインについて.保健衛生ニュース,2060,59-56,2020.
5. 杉田由加里,高橋良幸:【看護に必要とされる薬理学教育とは:看護学教育モデルコアカリキュラムの策定と指定規則改正を踏まて】日本の看護系大学における保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を活用した看護教育の活性化.日本薬理学雑誌,156,86-91,2021.

〔学会発表抄録〕

6. 中原真理子*,飯野理恵:平常時の災害保健活動を行うことを目指したワークショップの評価 - 教職員の健康管理を担う健康推進室における取り組み -.日本地域看護学会第 23 回学術集会講演集,132,2020.
*修士課程修了
7. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,坂井文乃,杉田由加里,栗栖千幸,土屋裕子,佐藤太一:予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックの OJT への活用の実際と影響.日本地域看護学会第 23 回学術集会講演集,134,2020.
8. 手塚早苗*,吉本照子**:自ら支援を求めない高齢者に対する地域包括支援センター専門職の役割行動指標の作成.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,32,2020.
*修士課程修了 **本研究科教員
9. 福地明美*,飯野理恵,杉田由加里:在宅療養者への看護実践力の向上を目指した訪問看護実習の再構築.千葉看護学会第 26 回学術集会講演集,44,2020.
*修士課程修了
10. 杉田由加里,井出成美,石川麻衣:健康の維持・増進に対する地域高齢者の認識及び行動に関する文献検討.第 79 回日本公衆衛生学会総会抄録集,67(10),387,2020.
11. 吉本照子*,辻村真由子,尾崎直子,吉田靖子,山崎潤子,小宮山日登美,権平くみ子:訪問看護管理者のための新人訪問看護師育成支援ツールの開発.第 10 回日本在宅看護学会学術集会プログラム・抄録集,103,2020.
*本研究科教員
12. 杉田由加里,田中美延里,松下光子:看護実践者のコンピテンシーの開発・発展における効果的な学習方法に関する文献検討.第 40 回日本看護科学学会学術集会,東京,P1-054,2020.
13. 杉田由加里,石川麻衣:地域在住高齢者の健康の維持・増進に対する支援方法に関する文献検討.第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,211,2021.

ケア施設看護システム管理学

〔原著〕

1. 山口多恵,高比良祥子,酒井郁子:一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ異動した中堅看護師がリハビリテーション看護を受け入れる要因と属性との関係.日本リハビリテーション看護学会誌,10(1),41-50,2020.

2. Yamamoto, T., Yamamoto, M., Abe, H., Sakai, I.(2020). Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan .*Journal of Allied Health* , 2020.

〔論文等（査読あり）〕

3. Hunter, A. W., Casenove, D., Mayers, C., & Mitchell, E. G. (2020). Reconstructing the ecology of a Jurassic pseudo planktonic raft colony. *Royal Society open science*, 7(7), 200142.

〔論文等（査読なし）〕

4. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門 長期ケア施設の特徴と看護管理者の役割 信頼をつくる看護管理.臨床老年看護,27(2),日総研出版,73-79,2020.
5. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第2回) 多職種との連携と協働を充実させる組織づくり.臨床老年看護,27(5),日総研出版,81-88,2020.
6. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第3回) 長期ケアの質を管理しよう.臨床老年看護,27(6),日総研出版,85-91,2020.
7. 酒井郁子:〔誌上 Journal Club-私を変えた激アツ論文〕教養編 看護学「看護中心の基本的な看護とは何か?」を考え続けること 医師と看護師の”哲学の違い“の必要性.総合診療,30(5),581-584,医学書院,2020.
8. 酒井郁子:認知症ケアチームを効果的に運営する「特集 認知症ケアチームの実践のために」.老年精神医学雑誌,31(8),803-810,2020.
9. 酒井郁子,深堀浩樹,山本則子,山川みやえ:「高齢者ケアのために新型コロナウイルス対応情報を発信する会」.朝日新聞,2020年6月1日掲載,朝日新聞デジタル配信
https://digital.asahi.com/articles/ASN5M457TN52UTFL003.html?fbclid=IwAR2_VcYz3FxmMuzFr0L_8LPRq6B_U_cPDiBvbF5iLnm4ptfR2qV387Jck4. 2020年5月20日.
10. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第4回) EBPの実装 根拠に基づいてケアを改善しよう.臨床老年看護,28(1),日総研出版,91-97,2021.
11. 山川みやえ,深堀浩樹,酒井郁子,山本則子:組織とコミュニティ 高齢者施設で働くスタッフをサポートするための研究者有志による情報発信.新型コロナウイルス ナースたちの現場レポート.日本看護協会出版会,580-587,2021.

〔単行書〕

12. 福井トシ子,斎藤訓子,酒井郁子,吉岡佐知子ほか:介護施設の看護実践ガイド 第2版.医学書院.2020.
13. 酒井郁子:Part.1 身体拘束をしない看護の実現に向けて 3.4 認知症ケア加算による身体拘束低減への影響.鈴木みずえ,黒川美知代(編),認知症 plus 身体拘束予防 ケアをみつめ直し、抑制に頼らない看護の実現へ.日本看護協会出版会,26-30,2020.

〔学会発表抄録〕

14. 小松亮,池崎澄江:二次救急医療機関における救急外来で勤務する看護師のマネジメントの雨量に関連する要因.千葉看護学会第26回学術集会講演集,40,2020.
15. 井出成美,松本暢平,臼井いづみ,馬場由美子,朝比奈真由美,酒井郁子:千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その1~在宅障害者とその家族へのメールインタビューの試み~.第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,39,2020.
16. 井出成美,松本暢平,臼井いづみ,馬場由美子,朝比奈真由美,酒井郁子:千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その2~非同期型メディアツールによるグループワークの課題~.第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,40,2020.
17. 鋪野紀好,井出成美,窪田容子,石井伊都子,酒井郁子:反転授業を用いた多職種連携シミュレーションはせん妄マネジメントにおける多職種連携協働実践能力を向上させるか?(反転授業と多職種連携シミュレーションによる多職種連携協働実践能力向上).第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,72,2020.
18. 臼井いづみ,井出成美,馬場由美子,酒井郁子:認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証 第3報,第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,76,2020.

19. 友滝愛,酒井郁子,奥村朱美,津田泰伸,深堀浩樹:専門看護師の「根拠に基づく実践」のための文献の批判的吟味とその学習に影響する要因.第40回日本看護科学学会学術集会,42,2020.
20. 池崎澄江,谷本真理子,黒河内仙奈,芥田ゆみ,酒井郁子:特別養護老人ホームにおける看取り実践の質向上に向けた取り組み.第40回日本看護科学学会学術集会,136,2020.
21. 深堀浩樹,山川みやえ,酒井郁子,山本則子:COVID-19 感染拡大時の介護施設での感染予防のためのアクションリストの配信と普及.第40回日本看護科学学会学術集会,63,2020.
22. Casenove, D. (2021). *Impact of self-reflection prompts on graduate nursing students in an academic English course*. The 24th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). Manila. (submitted, result on February 15th)

[シンポジウム・招聘講演]

23. 国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター 講演
酒井郁子:一般急性期病院における身体拘束を考える会.国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター,東京,2020.
24. 特定行為研修のキックオフシンポジウム (WEB形式) 講演
酒井郁子:千葉大学医学部附属病院における特定行為研修の特徴と将来像.特定行為研修のキックオフシンポジウム (WEB形式),千葉大学医学部附属病院,千葉,2020.
25. 障害福祉保健委員会講演会 講演
酒井郁子:認知症のある人へのケアと専門職連携.障害福祉保健委員会講演会.千葉県八千代市歯科医師会,千葉,2020.
26. 医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院 講演
酒井郁子:高次脳機能障害のある人のリハビリテーションを支える専門職連携実践.医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院,千葉,2020.
27. 令和2年度青森県医療安全管理者交流会 講演
酒井郁子:地域包括ケアの中での医療安全.令和2年度青森県医療安全管理者交流会(リモート),青森県,2020.
28. 第40回日本看護科学学会学術集会 交流集会 研究・学術推進委員会企画
新福洋子,大江真琴,五十嵐歩,大久保暢子,小池智子,酒井郁子,武村雪絵,深堀浩樹,福井小紀子,廣岡佳代:交流集会 研究・学術推進委員会企画 看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために.第40回日本看護科学学会学術集会,東京,2020.
29. 第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 シンポジウム1
山本武志,下井俊典,酒井郁子:世界の視点で地域のIPEをつくる.第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,22-25,2020.
30. 長野保健医療大学 FDSO 研修会 基調講演
酒井郁子:IPW と IPE の基本的な考え方とカリキュラムマネジメント.長野保健医療大学 FDSO 研修会(リモート),長野,2021.

[その他]

31. 酒井郁子:東京都看護協会,看護師職の委員会Ⅱ企画研修 在宅・高齢者ケア施設の看護管理者研修会・交流会,看護管理者の危機管理.
32. 酒井郁子:千葉県看護学校協議会 第1回研修会,改正カリキュラムに向けて 専門職連携教育の概要と具体的な取り組みについて.(WEB配信)
33. 酒井郁子:神奈川県看護協会 令和2年度介護保険施設等看護研修Ⅲ,介護保険施設の看護管理者の役割と責務.
34. 酒井郁子:岩手県看護協会 令和2年度看護管理者研修会,多職種連携について.
35. 酒井郁子:沖縄県看護協会 長期ケアを担う(訪問看護,介護施設,療養病棟)看護職リーダーのマネジメント.
36. 酒井郁子:北須磨訪問看護・リハビリセンター 訪問看護ステーションの管理者育成勉強会,訪問看護ステーションの人材育成に関するコンサルテーション.
37. 酒井郁子:東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル,質管理Ⅰ.

ケア開発研究部

〔原著〕

1. 野地有子:看護実践における CPG の位置づけ～看護国際化ガイドラインの軌跡と未来形～ Precision Medicine,3 (7),49-52,2020.
2. 溝部昌子,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,マシューポーター,炭谷大輔,大友英子,小林康司,浜崎美子:看護職の多文化対応能力研修プログラムに用いる教材開発.国際臨床医学会雑誌,4(1),43-49,2021.

〔論文等 (査読なし)〕

3. 日本糖尿病教育・看護学会 政策委員会 (2018年9月～2020年9月) 餘目千史,飯田直子,金子佳世,黒田久美子,高橋良幸,永渕美樹,任和子,肥後直子,古山景子,水野美華,村田中,森山美知子,柳井田恭子,横山悦子:遠隔モニタリングを用いた看護支援と「糖尿病透析予防指導管理料」の算定状況に関する実態調査.日本糖尿病教育・看護学会,24(2),145-151,2020

〔報告書〕

4. 野地有子:世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン.平成 29 年度～令和 3 年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 A) 研究成果報告書,2020.
5. 野地有子,飯島佐知子,大友英子,小粥美香,谷井真弓,小寺さやか,小林康司,近藤麻理,坂元眞奈美,野崎章子,浜崎美子,別府佳代子,松岡光,水野雅子,溝部昌子,藤田さやか,宮越幸代,本杉樹子,若園尚美,相原綾子,藤田比左子,炭谷大輔,中山健夫:令和 2 年度共同研究 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書 nGlobe セミナー.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,1-134,2021.
6. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,相原綾子,炭谷大輔:看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の推進 平成 31 年度～令和 2 年度 看護学教育 FD マザーマップ・コンテンツ開発 10 年後を見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進 コンテンツ報告書.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,4,1-21,2021.
7. 杉山みち子,小山秀夫,野地有子,ほか:令和 2 年度厚生労働省老人保健事業推進等補助金 (老人保健健康増進等事業分)『認知症対応型共同生活介護における栄養管理のあり方に関する研究事業』報告書.一般社団法人日本健康・栄養システム学会,2021.
8. 野地有子:シャリテ IPIKA-CHIBA プロジェクト:シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成,令和元年度千葉大学国際交流公募事業『海外との組織的教育研究交流支援プログラム』報告書,2020.
9. 野地有子,正木治恵:ナイチンゲール・チャレンジナウ! シャリテ・千葉大学共同による若手リーダーの育成,令和 2 年度千葉大学国際交流公募事業『海外との組織的教育研究交流支援プログラム』報告書,2021.
10. 溝部昌子,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,マシューポーター,炭谷大輔,大友英子,小林康司,浜崎美子:グローバル化する看護の現場に役立つ English Note 看護英語ノート. JSPS 基盤研究 (A)野地有子「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン (17H01607)」西南女学院大学,1-28,2021.
11. 野地有子,和住淑子,黒田久美子,銭淑君,高木夏恵:令和 2 年度看護学教育ワークショップ報告書,看護学教育支援における ICT 活用の可能性,千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,1-71,2021.
12. 和住淑子,野地有子,黒田久美子,銭淑君,高木夏恵,吉本照子,稲垣朱美,上野まり,大原裕子,荒尾博美,奥田玲子,落合亮太,叶谷由佳,武田淳子,出貝裕子,中村京子,堀律子,本間昭子,松浦治代,渡邊典子:大学における医療人養成の在り方に関する調査研究受託事業 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究最終報告書 (平成 30 年度～令和 2 年度).看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,1-126,2021.
13. 和住淑子,野地有子,黒田久美子,銭淑君,高木夏恵,吉本照子,稲垣朱美,上野まり,大原裕子,荒尾博美,奥田玲子,落合亮太,叶谷由佳,武田淳子,出貝裕子,中村京子,堀律子,本間昭子,松浦治代,渡邊典子:社会の変化に即した看護系大学学士課程教育の改革 事例集～自大学や地域社会のもつ潜在的な力

の発見ー看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,1-56,2021.

〔単行書〕

14. 野地有子:米国と英国の公衆衛生の発達と公衆衛生看護活動の歴史.標準保健師講座 1,公衆衛生看護学概論.医学書院,第5版第4刷,248-256,2021.
15. 野地有子 (監修):クエスチョンバンク保健師国家試験問題解説 2021 第13版,メディックメディア,2020.
16. 野地有子 (監修):保健師国家試験のためのレビューブック 2021,第21版,メディックメディア,2020.
17. 黒田久美子:セルフケア.酒井郁子,金城利雄,深堀浩樹編,リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む.改訂第3版,72-78,南江堂,2021

〔学会発表抄録〕

18. 野地有子,中村彩,野本尚子,中野香名:食物アレルギーの児をもつ母親の負担やストレスを軽減する管理栄養士と看護師の関わり方および工夫点.日本健康・栄養システム学会誌,20(1),51,2020.
19. 相原綾子,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子:外国につながる人々への看護ケア-異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用 第2報-第10回日本看護評価学会学術集会抄録集,48,2020.
20. 鈴木里美*,野地有子:看護師と医療通訳士が協働する際の課題-看護師と医療通訳士の双方の視点から-第10回日本看護評価学会学術集会抄録集,47,2020.
*看護学部卒業
21. 飯島佐知子,松岡光,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,相原綾子:HCAHPS を用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較.第10回日本看護評価学会学術集会抄録集,49,2020.
22. 野地有子,藤田比佐子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子:ICT を活用した Covid-19 への対応例:看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第1報 タイムラインに沿って.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,235,2020.
23. 藤田比佐子,野地有子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子:ICT を活用した Covid-19 への対応例:看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第2報 参加者への導入と共創.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,248,2020.
24. 松田美智代*,野地有子:相互リフレクションによる日常の経験を学びに変える有効性について-相互支援する組織づくり-.第24回日本看護管理学会学術集会抄録集,268,2020.
*修士課程修了
25. Noji, A., Fujita, H., Sumitani, D., Narita, T. (2020). *Creating Value for Academic Communities by Leveraging the strengths of Online Communication in COVID-19 Pandemic Environments*. The 13th International Nursing Research Conference, Seoul National University, Korea.
26. Tong, Ling, Wang Jingping, Li Yao, Li Juan, Noji, A., Kitaike, T. (2020). *Self-perceived transcultural self-efficacy in nurses' in third-class general hospitals in Hangzhou, China*. The 13th International Nursing Research Conference, Seoul National University, Korea.
27. 溝部昌子,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,炭谷大輔:看護師の文化能力研修に用いる教材の検討-看護英語ノートの制作 Development of Education Material for Nurses Cultural Competence-English Note for Transcultural nursing-.第5回グローバルヘルス合同大会,大阪,2020.
28. Noji, A., Fujita, H., Sumitani, D., Narita, T. (2020). *Factor Analysis Affecting Online Communication to Healthcare Professional in COVID-19 Pandemic*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
29. Fujita, H., Noji, A., Sumitani, D., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A. (2020). *Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 1)*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
30. Sumitani, D., Fujita, H., Noji, A., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A. (2020). *Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 2)*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.

31. Haraikawa, K., Noji, A., Yoshinaga, K. (2020). *Relation between Skin Trouble and Due to Nurses' Wearing of Personal Protective Equipment in Response to Covid-19*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
32. Ikuta, K., Noji, A., Genda, A. (2020). *A Literature review of spiritual care practices by nurses on general wards – Focusing on the situations and processes, and the difficulties and challenges in practice-*. The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference, Hong Kong.
33. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 浜崎美子, 小林康司, 松岡光:医療通訳士と看護師の協働 -看護師・病院として準備しておくべきこと-.第40回日本看護科学学会学術集会, 東京,2020.
34. 和住淑子, 荒尾博美, 上野まり, 奥田玲子, 落合亮太, 叶谷由佳, 黒田久美子, 錢淑君, 武田淳子, 出貝裕子, 中村京子, 野地有子, 堀律子, 本間昭子, 松浦治代, 渡邊典子:社会の変化に即した学士課程教育の改革 -隣地実習指導に関する看護系大学の個別事例研究-.第40回日本看護科学学会学術集会, 東京,2020.
35. 野地有子, 梅田麻希, 溝部昌子, 近藤麻理, 小寺さやか, 浜崎美子, 大友英子, 飯島佐知子, 藤田比左子:外国につながるのある人たちへの看護ケア-看護学生における「異文化との出会い 42 病院マップ」の活用-.第25回聖路加看護学会学術大会, 東京,2021.
36. 小菅南美, 黒田久美子:看護管理者が捉えるナースコール対応の現状と課題,第26回千葉看護学会学術集会, 千葉,2020

〔シンポジウム・招聘講演〕

37. 野地有子:第20回日本健康・栄養システム学会大会長講演,「人生100年令和の時代を支える NCM」, 日本健康・栄養システム学会誌,20(1),9-1,2020.
38. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 藤田比左子, 炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「看護職の多文化対応能力-対立・葛藤の対応」,2020.
39. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 藤田比左子, 炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「看護職の多文化対応能力-差別・格差の対応」, 2020.
40. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 藤田比左子, 炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「インターカルチャー・コミュニケーション-外国人患者の臨床とコミュニケーション」,2020.
41. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 藤田比左子, 炭谷大輔:nGlobe セミナー/ナイチンゲール・チャレンジナウ!「多文化環境における医療倫理」1.看護および医療倫理入門 2.多文化環境における倫理的対立 3.倫理相談/倫理委員会のための異文化スキル 4.終末期の意思決定における異文化的視点,2021.
42. 野地有子:看護管理者のための TCN (異文化看護). 福井県看護協会,2020.

政策・教育開発研究部

〔報告書〕

1. 野地有子, 和住淑子, 黒田久美子, 錢淑君, 高木夏恵:令和2年度 看護学教育ワークショップ報告書 「看護学教育支援における ICT 活用の可能性」.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,2020.
2. 和住淑子, 野地有子, 黒田久美子, 錢淑君, 高木夏恵, 吉本照子, 稲垣朱美, 上野まり, 大原裕子, 荒尾博美, 奥田玲子, 落合亮太, 叶谷由佳, 武田淳子, 出貝裕子, 中村京子, 堀律子, 本間昭子, 松浦治代, 渡邊典子:大学における医療人養成の在り方に関する調査研究受託事業 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究最終報告書 (平成30年度-令和2年度).看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター,2021.
3. 和住淑子, 野地有子, 黒田久美子, 錢淑君, 高木夏恵, 吉本照子, 稲垣朱美, 上野まり, 大原裕子, 荒尾博美, 奥田玲子, 落合亮太, 叶谷由佳, 武田淳子, 出貝裕子, 中村京子, 堀律子, 本間昭子, 松浦治代, 渡邊典子:社会の変化に即した看護系大学学士課程教育の改革 事例集-自大学や地域社会のもつ潜在的な力の発見-.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導セン

ター,2021.

〔学会発表抄録〕

4. Wazumi, Y., Saitou, S., Yamamoto, T., Chien, S. C. (2020). *The development of a new nursing technique education system through visualization of "vital power"*. NETNEP2020 - 8th International Nurse Education Conference, 2020, Sitges, Spain. Conference Canceled.
5. Kajiwar, A.*, Wazumi, Y., Chien, S. C., Ogawa, Y.*(2020). *Development of an Innovative Model for Perinatal Care Focusing on the Family's Vital Power From the Perspective of Male Nurses*. Taiwan International Nursing Conference 2020, Taipei City, Taiwan.
*看護学部卒業
6. Ogawa, Y.*, Chien, S. C., Wazumi, Y., Kajiwar, A.*(2020). *A Fundamental Artificial Intelligence Concept for Apprehending Daily Life Needs of Discharge Patients in Japanese Society 5.0*. Taiwan International Nursing Conference 2020, Taipei City, Taiwan.
*看護学部卒業
7. Chien, S. C., Wazumi, Y., Katagiri, T., Maruyama, K., Saitou, S., Udagawa, Y. (2020). *Relationships of lifestyle and life balance on autonomic nerves for middle age working women with presymptomatic disease*. Taiwan International Nursing Conference 2020, Taipei City, Taiwan.
8. Udagawa, Y., Chien, S. C., Wazumi, Y., Yamamoto, T. (2020). *A Paradigm Case in the Field of Nursing for Intractable Neurological Diseases*. Taiwan International Nursing Conference. 2020, Taipei City, Taiwan.
9. 和住淑子,荒尾博美,上野まり,奥田玲子,落合亮太,叶谷由佳,黒田久美子,錢淑君,武田淳子,出貝裕子,中村京子,野地有子,堀律子,本間昭子,松浦治代,渡邊典子:社会の変化に即した学士課程教育の改革－臨地実習指導に関する看護系大学の個別事例研究－.第40回日本看護科学学会学術集会,2020,オンライン開催.
10. 齊藤しのぶ,和住淑子,飛世真理子:初めて模擬患者に対して看護技術を適用する場面における看護初学者の対象認識 および表現の特徴.第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会学術集会,2021,オンライン開催.

附属専門職連携教育研究センター (IPERC)

〔原著〕

1. 山口多恵,高比良祥子,酒井郁子:一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ異動した中堅看護師がリハビリテーション看護を受け入れる要因と属性との関係.日本リハビリテーション看護学会誌,10(1),41-50,2020.
2. 井出成美,伊藤裕佳,酒井郁子:専門職連携教育実装における開始期の課題と対処.保健医療福祉連携,13(2),125-134,2020.

〔論文等 (査読あり)〕

3. Yamamoto, T., Yamamoto, M., Abe, H., Sakai, I.(2020).Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan .*Journal of Allied Health* , in printing 2020.

〔論文等 (査読なし)〕

4. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門 長期ケア施設の特徴と看護管理者の役割 信頼をつくる看護管理. 臨床老年看護,27(2),日総研出版,73-79,2020.
5. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第2回) 多職種との連携と協働を充実させる組織づくり. 臨床老年看護,27(5),日総研出版,81-88,2020.
6. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第3回) 長期ケアの質を管理しよう.臨床老年看護,27(6),

日総研出版,85-91,2020.

7. 酒井郁子: [誌上 Journal Club-私を変えた激アツ論文] 教養編 看護学「看護中心の基本的な看護とは何か?」を考え続けること 医師と看護師の“哲学の違い”の必要性.総合診療,30 (5) ,581-584,医学書院,2020.
8. 酒井郁子:認知症ケアチームを効果的に運営する「特集 認知症ケアチームの実践のために」.老年精神医学雑誌,31(8),803-810,2020.
9. 酒井郁子,深堀浩樹,山本則子,山川みやえ:「高齢者ケアのために新型コロナウイルス対応情報を発信する会」.朝日新聞,2020年6月1日掲載,朝日新聞デジタル配信.
https://digital.asahi.com/articles/ASN5M457TN52UTFL003.html?fbclid=IwAR2_VcYz3FxiMuzFr0L_8LPRq6B_U_cPDiBvbF5iLnm4ptfR2qV387Jck4. 2020年5月20日.
10. 酒井郁子:長期ケア施設の看護管理入門(第4回) EBPの実装 根拠に基づいてケアを改善しよう.臨床老年看護,28(1),日総研出版,91-97,2021.
11. 井出成美:在宅ケアにおける IPW に関する尺度.日本地域看護学会誌,23(1),66-69,2020.

〔報告書〕

12. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,富永嘉子,長谷川容佳:千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 令和2年度事業報告書,2021.

〔単行書〕

13. 福井トシ子,斎藤訓子,酒井郁子,吉岡佐知子ほか:介護施設の看護実践ガイド 第2版.医学書院,2020.
14. 酒井郁子:Part.1 身体拘束をしない看護の実現に向けて 3.4 認知症ケア加算による身体拘束低減への影響.鈴木みずえ,黒川美知代(編),認知症 plus 身体拘束予防 ケアをみつめ直し、抑制に頼らない看護の実現へ.日本看護協会出版会,26-30,2020.
15. 臼井いづみ:第5章カリキュラムの新しいパラダイム.C.M.ライゲルース,B.J.ビーティ,R.D.マイヤーズ(鈴木克明 監訳):インストラクショナルデザイン理論とモデル.北大路書房,115-139,2020.

〔学会発表抄録〕

16. 井出成美,松本暢平,臼井いづみ,馬場由美子,朝比奈真由美,酒井郁子:千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その1~在宅障害者とその家族へのメールインタビューの試み~.第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,39,2020.
17. 井出成美,松本暢平,臼井いづみ,馬場由美子,朝比奈真由美,酒井郁子:千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その2~非同期型メディアツールによるグループワークの課題~.第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,40,2020.
18. 鋪野紀好,井出成美,窪田容子,石井伊都子,酒井郁子:反転授業を用いた多職種連携シミュレーションはせん妄マネジメントにおける多職種連携協働実践能力を向上させるか?(反転授業と多職種連携シミュレーションによる多職種連携協働実践能力向上).第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,72,2020.
19. 臼井いづみ,井出成美,馬場由美子,酒井郁子:認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証 第3報,第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集,76,2020.
20. 友滝愛,酒井郁子,奥村朱美,津田泰伸,深堀浩樹:専門看護師の「根拠に基づく実践」のための文献の批判的吟味とその学習に影響する要因.第40回日本看護科学学会学術集会,42,2020.
21. 池崎澄江,谷本真理子,黒河内仙奈,芥田ゆみ,酒井郁子:特別養護老人ホームにおける看取り実践の質向上に向けた取り組み.第40回日本看護科学学会学術集会,136,2020.
22. 深堀浩樹,山川みやえ,酒井郁子,山本則子:COVID-19 感染拡大時の介護施設での感染予防のためのアクションリストの配信と普及.第40回日本看護科学学会学術集会,63,2020.

〔シンポジウム・招聘講演〕

23. 酒井郁子:講演「一般急性期病院における身体拘束を考える会」国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター,東京,2020.
24. 酒井郁子:講演 千葉大学医学部附属病院における特定行為研修の特徴と将来像 特定行為研修の

- キックオフシンポジウム (WEB 形式), 千葉大学医学部附属病院, 千葉, 2020.
25. 酒井郁子: 講演 認知症のある人へのケアと専門職連携. 障害福祉保健委員会講演会. 千葉県八千代市歯科医師会, 千葉, 2020.
 26. 酒井郁子: 講演 高次脳機能障害のある人のリハビリテーションを支える専門職連携実践. 医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院, 千葉, 2020.
 27. 酒井郁子: 講演 地域包括ケアの中での医療安全. 令和 2 年度青森県医療安全管理者交流会 (リモート), 青森県, 2020.
 28. 酒井郁子: 看護師職の委員会 II 企画研修 看護管理者の危機管理. 在宅・高齢者ケア施設の看護管理者研修会・交流会, 東京都看護協会, 東京, 2020.
 29. 酒井郁子: 改正カリキュラムに向けて 専門職連携教育の概要と具体的な取り組みについて. 千葉県看護学校協議会第 1 回研修会 (WEB 配信), 千葉県看護学校協議会, 千葉, 2020.
 30. 酒井郁子: 介護保険施設の看護管理者の役割と責務. 令和 2 年度介護保険施設等看護研修Ⅲ, 神奈川県看護協会, 神奈川, 2020.
 31. 酒井郁子: 多職種連携について. 令和 2 年度看護管理者研修会, 岩手県看護協会, 岩手, 2020.
 32. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 交流集会 研究・学術推進委員会企画
新福洋子, 大江真琴, 五十嵐歩, 大久保暢子, 小池智子, 酒井郁子, 武村雪絵, 深堀浩樹, 福井小紀子, 廣岡佳代: 交流集会 研究・学術推進委員会企画 看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2020.
 33. 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 シンポジウム 1
山本武志, 下井俊典, 酒井郁子: 世界の視点で地域の IPE をつくる. 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 22-25, 千葉, 2020.
 34. 酒井郁子: 基調講演 IPW と IPE の基本的な考え方とカリキュラムマネジメント. 長野保健医療大学 FDSO 研修会, (リモート), 長野, 2021.
 35. 井出成美: 学術集会長講演 文化的視点から見た専門職連携—他の職種を理解することとは—. 第 13 回文化看護学会学術集会抄録集, 6-7, 千葉, 2021. (オンライン).
 36. 孫佳茹: 中華民国期における子どもの社会教育—「童子軍」の成立と展開. 神奈川大学・日中関係史研究会第 81 回例会, 横浜, 2021. (オンライン).

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員等（*は大学院生）が研究代表者となっているものに限りません。
研究種目・代表者氏名による五十音順です。

1) 文科科研・厚労科研

【新規】

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
石橋みゆき	文科科研 基盤研究(B)	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発
臼井いづみ	文科科研 基盤研究(C)	災害対策本部で必要なリーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発
岡田 忍	文科科研 基盤研究(C)	介護支援専門員が活用可能な口腔アセスメントアルゴリズムの作成と評価
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究(C)	Assessment of a new nursing English curriculum focusing on intercultural competence
木村佳代子	文科科研 基盤研究(C)	後期早産児とその母親の母子相互作用を促進する看護介入の開発
辻村真由子	文科科研 基盤研究(C)	訪問看護を利用する一人暮らし高齢者の包括的支援のためのガイド開発
雨宮 歩	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の下肢実態調査と潰瘍予防フットウェアの開発
大原 裕子	文科科研 若手研究	高齢糖尿病患者が今をより良く生きることを支える ACP 対話の促進支援ツールの開発
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患手術を受ける幼児のレジリエンス発達を促進する看護支援プログラムの開発
渡邊 章子	文科科研 若手研究	配偶者と死別したアルツハイマー病高齢者の喪の過程への支援モデルの開発
佐野 元洋	文科科研 研究活動 スタート支援	Web ベースの心不全管理ツールを使用した生活支援に関する研究
杉田由加里	文科科研 研究活動 スタート支援	保健師の組織マネジメント役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムの作成
菅原 久純*	文科科研 特別研究員奨励費	患者の睡眠時における最適なケアタイミングを考慮したケア方法の開発
酒井 郁子	厚生労働行政推進調査事業費	特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査
宮崎美砂子	厚生労働科学研究費 補助金	災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究

【継続】 期間延長による継続を含みます。

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
野地 有子	文科科研 基盤研究(A)	世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン
森 恵美	文科科研 基盤研究(A)	高年初産婦とその夫に対する出産前教育プログラムの開発と検証
石丸 美奈	文科科研 基盤研究(B)	地域包括ケアを担う看護職者育成のための住民と協働したシナリオ学習教材の開発
斉藤しのぶ	文科科研 基盤研究(B)	看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発
酒井 郁子	文科科研 基盤研究(B)	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムの検証
諏訪さゆり	文科科研 基盤研究(B)	認知症の人とのコミュニケーション・チャンネルの開発による研究倫理の創成
増島麻里子	文科科研 基盤研究(B)	慢性疾患高齢者の終生期の充実に向けた市民・医療をつなぐ対話支援プログラムの検証
宮崎美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践の OJT 実用化研究
飯野 理恵	文科科研 基盤研究(C)	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究
井出 成美	文科科研 基盤研究(C)	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発
岩田 裕子	文科科研 基盤研究(C)	妊娠期から産後6か月までのアクティグラフを用いた父親の睡眠と産後うつ縦断的研究
植田満美子	文科科研 基盤研究(C)	潜在看護師の離職後の経験の解明－個別の状況に応じた復職支援提供に向けて－
小宮山政敏	文科科研 基盤研究(C)	前腕における皮神経の走行－皮静脈穿刺による神経損傷の防止を目指して
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究(C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発
錢 淑君	文科科研 基盤研究(C)	健康生成論を応用した青壮年期女性の生活クローンモデル及び健康支援アプリ開発
田上美千佳	文科科研 基盤研究(C)	精神疾患患者の家族へのエンパワメントと希望につながる支援の構築
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	看護業務基準の基礎教育における活用
中村 伸枝	文科科研 基盤研究(C)	地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標
中山登志子	文科科研 基盤研究(C)	「研究指導能力自己評価尺度－看護系大学院修士論文指導用－」の開発と有効性の検証

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高 難度看護実践教育
眞嶋 朋子	文科科研 基盤研究(C)	がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にし た連携教育プログラムの開発
小川 俊子	文科科研 若手研究	介護拒否のある療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔 清拭手法の確立と効果の評価
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発 展を促す支援指針の開発
仲井 あや	文科科研 若手研究	早産児の呼吸の安定と自己調整機能の成熟を支える看護 援助モデルの構築
山崎由利亜	文科科研 若手研究	暮らしの場における dementia-friendly な環境評価ツール 日本版の作成
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症療養者の日常生活上の困難を改善す る訪問看護ケアモデルの開発
雨宮 歩	文科科研 若手研究(B)	歩容評価システムの開発とせん断応力圧力比を考慮した 胼胝予防介入効果の検証
鈴木 悟子	文科科研 若手研究(B)	30 歳代男性の生活習慣病予防のための対話型健康学習支 援ツールの開発
石橋みゆき	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	災害シチズンサイエンス研究手法の開発
宮崎美砂子	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	原発被災地域住民の安心・生きがい・尊厳を支える超学際 的地域包括ケアシステムの構築

2) その他研究助成金

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目(助成期間)
雨宮 歩	三井住友海上福祉財団 研究助成	ICT で身体拘束を減らすー医療用カテーテル自己抜去防止 システムの開発ー (令和2年12月から1年間)
石丸 美奈	科学技術融合振興財団 調査研究助成	認知症との地域共生を実現するケアリング・コミュニティ を協働デザインするためのツールの作成と検証: 地域活動 プランニング・ゲーム (令和3年2月から2年間)
遠山 房絵	日本母性看護学会 新型コロナウイルス感 染症関連研究助成	新型コロナ禍におけるリモートでの夫および家族立ち会い 出産の可能性の検討 (令和2年4月から2年間)
湯本 晶代	公益財団法人 在宅医 療助成 勇美記念財団 2020年度(後期)指定 公募「在宅医療におけ る感染症対策に関する 調査研究」	新型コロナウイルス感染症拡大が在宅高齢者の社会参加に 及ぼした影響と今後の展望 (令和3年3月から1年間)

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
石坂 晴奈*	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 「在宅医療研究への助成」一般公募	在宅認知症高齢者の排泄に関する生活障害と家族介護者によるケア (令和2年8月から1年間)
佐藤 太一*	北野生涯教育振興会 生涯教育研究助成金	行政保健師の体系的OJT推進に関する研究 (令和2年4月から2年間)
佐藤真奈美*	公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成金	被災地の生活再建において女性が果たした役割と人的ネットワークに関する研究 (令和2年4月から2年間)
澤田 幸穂*	公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金	在宅高齢者のせん妄ケアの構築に向けた基礎的研究：発症要因と状態像に着目して (令和2年6月から修了予定日まで（但し最長3年間）)
雫石 英里*	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 「在宅医療研究への助成」一般公募	シニアの日常生活における活動能力とテクノロジー利用の関連 (令和2年8月から1年間)
鈴木 聡子*	公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成金	被災した妊婦が健康で安寧な生活を構築する様相に関する研究 (令和2年4月から2年間)
中尾 有花*	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 「在宅医療研究への助成」一般公募	がん治療の意思決定を行う認知症高齢者のための専門・認定看護師と医師による支援 (令和2年8月から1年間)
原田 奈美*	日本私立看護系大学協会	妊婦の出生前スクリーニング受検に関する意思決定の経験 (令和2年4月～から2年間)

3. 共同研究

1) 国際共同研究

【訪問看護学】

(1) 研究プロジェクト名：高齢者の在宅見守りロボットの開発研究と社会実装における倫理的課題

① 本学における研究代表者：諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー：フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen フィンランド／パルガス市／Camilla Bergman-Kärpijoki アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly

③ 開始年度：2016年度（アイルランド）、2017年度（フィンランド）

④ プロジェクトの概要：本研究は、認知症対策に熱心な日本、アイルランド、フィンランドの要介護高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職を対象とした質問紙調査を実施し、在宅高齢者の見守りのためのロボットやセンサーに関する倫理的課題をどのように認識しているかを明らかにすることを目的としている。以下に示す学際的研究チームで取り組んだ。

辻村真由子、石丸美奈、兪文偉、高橋絵里香、井出博生、島村敦子

⑤ 資金・助成等：公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第26回（2017年度）国際共同研究助成

⑥ 主な成果：日本、アイルランド、フィンランドにて収集したデータの分析を行い、国際ジャーナルに論文が掲載された。

1. Suwa S., Tsujimura M., Kodate N., Donnelly S., Kitinoja H., Hallila J., Toivonen M., Ide H., Bergman-Kärpijoki K., Takahashi E., Ishimaru M., Shimamura A., Yu W. (2020). Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Finland, Ireland, and Japan: A comparative questionnaire study. *Archives of gerontology and geriatrics*, 91, 104178-104178.

2. Kodate N., Donnelly S., Suwa S., Tsujimura M., Kitinoja H., Hallila J., Toivonen M., Ide H., Yu W. (2021). Home-care robots - attitudes and perceptions among older people, carers and care professionals in Ireland: A questionnaire study. *Health & Social Care in the Community*. (掲載決定)

3. Kodate N., Donnelly S., Tsujimura M., Suwa S.: Health and social care professionals' perceptions regarding home-care robots for older people in Ireland: A questionnaire study. 67th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Society, Cork, Ireland, 2019. (Age and Aging, 48 (Supplement 3), iii2, 2019.)

(2) 研究プロジェクト名：介護ロボットの社会実装モデルに関する国際共同研究～人・ロボット共創型医療・介護包括システムの構築に向けて～（HARP：RoCS）

① 本学における研究代表者：諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー：アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly、Hasheem Mannan

アイルランド／アイルランド王立内科医協会、学務長／Diarmuid O'Shea

フランス／フランス国立保健医学研究所／Boris Hauray

フランス／フランス国立科学研究センター／Sébastien Dalgalarondo

フランス／フランス国立社会科学高等研究院パリ日仏財団、所長／Sébastien Lechevalier

香港／香港中文大学／陳智豪、張美珍

③ 開始年度：2019年度

④ プロジェクトの概要：介護ロボットと人間の共創にむけて、日本発の社会実装モデルの実現・輸出を目指す第一歩として、日本・アイルランドを核とする国際研究チームを作り、各国の新聞記事の分析、政策実務家他へのヒヤリング調査、そして実証実験を行っている。以下に示す

学際的研究チームで取り組んでいる。

辻村真由子、湯本晶代、兪文偉、尾林和子、増山茂、坂田伸裕、田島誠一、鈴木豊太郎

⑤資金・助成等

公益財団法人トヨタ財団 2018 年度研究助成プログラム特定課題「先端技術と共創する人間社会」

【ケア開発研究部】

(1) 研究プロジェクト名：「ドイツと日本における看護職の文化対応能力」

① 本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

② 海外におけるパートナー：ドイツ/シャリテ医科大学病院/Judith Heepe 看護部長

③ 開始年度：2018 年度

④ プロジェクトの概要：ドイツと日本における看護職の文化対応能力に関する国際比較研究。ドイツは政策として移民を受け入れ、シャリテ医科大学病院では外国籍看護師を含めた多文化・多職種トレーニングを開発実施したところである。臨床課題について相互訪問およびインターネットによる事例検討を展開している。

⑤ 資金・助成等：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（A））

⑥ 主な成果：ドイツと日本における看護職の文化対応能力に関する事例検討からコンテンツの創出を進めている。

(2) 研究プロジェクト名：「シャリテ IPIKA-CHIBA プロジェクト：シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成」

① 本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

② 海外におけるパートナー：

ドイツ/シャリテ医科大学病院/Judith Heepe 看護部長

ドイツ/シャリテ医科大学病院/Ute Siebert 博士

ドイツ/シャリテ医科大学病院/Volkan Aykac 博士

③ 開始年度：2019 年度

④ プロジェクトの概要：シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成のために、大学院博士後期課程院生、修士課程院生、若手教員に渡航費援助およびオリジナルの研修プログラムを創出し継続的に実施している。COVID-19 パンデミック以降は、オンライン活用により交流を展開している。

⑤ 資金・助成等：千葉大学国際交流公募事業『海外との組織的教育研究交流支援プログラム』

⑥ 主な成果：大学院生においては、各自の研究テーマの国際的位置づけおよび共同研究者としてのカウンターパート候補を得ている。若手リーダー育成の視点から、オンラインによる Webinar 開催スキルのトレーニングを行い、自立して国際活動が展開できる基礎力を身につけてる。

(3) 研究プロジェクト名：「サンディエゴ大学と千葉大学の高度実践看護管理に関する共同教育」

① 本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

② 海外におけるパートナー：

アメリカ合衆国/サンディエゴ大学/Jane Georges 看護学部長/Kathy Marsh 副看護学部長

③ 開始年度：2019 年度

④ プロジェクトの概要

米国サンディエゴ大学は看護学教育研究で全米トップ 10 に入り、前看護学部長のハーディン教授のリーダーシップにより高度実践看護教育研究の研究所を開設した。大学院生および若手教員の相互交流と国際共同研究のシーズを生み出す。

⑤ 資金・助成等：小高根美那子看護教育研究助成金

⑥ 主な成果：教員の相互訪問を終え、千葉大学の看護管理学の大学院生 5 名が夏季集中留学を実

施した。各自の大学院研究計画および論文作成に活かされた。

2) 民間共同研究

【生体看護学】

(1) 認知症植物パズル療法®のアウトカム予測モデルとそれに基づいた療法のカスタマイズ

- ① 本学における研究代表者： 兪 文章（千葉大学フロンティア医工学センター）
- ② 開始年度：2020 年度
- ③ プロジェクトの概要：超高齢社会である現在、運動による健康維持をコンセプトとする方法が検討されているが、認知機能と運動機能のダブル効果が期待されるリハビリテーションプログラムとして確立されたものはない。昨年度、認知症高齢者の認知機能および上肢機能に対する植物パズル療法®の評価法の検討および実践においてその有効性を明らかにしてきた。しかし、認知症リハビリテーション法として確立するために、運動機能と認知機能の相互作用を検討し、その両方のアウトカム予測モデルとそれに基づいた植物パズル療法®のカスタマイズが必要となる。2020 年度では、これまで行われてきた療法の実践で蓄積してきたデータを用いて、アウトカム予測モデルを構築し、さらにその予測モデルに基づいた療法プログラムのカスタマイズ法とプログラムを確立することを目的としている。以下に示す学際的研究チームで取り組んだ。
兪文偉，田中裕二，松戸圭子
- ④ 資金・助成等：公益財団法人千葉市産業振興財団 産学共同研究促進事業負担金（2020 年度）
- ⑤ 主な成果：これまで行われてきた認知症高齢者に対する植物パズル療法®で蓄積してきたデータの分析を行った。その結果の一部について、日本看護研究学会第 46 回学術集会において、誌上発表を行った。
- ⑥ その他特記すべき事項（受賞、シンポジウム等）：特になし

(2) ICT で身体拘束を減らす ―医療用カテーテル自己抜去防止システムの開発―

- ① 研究代表者：雨宮 歩
- ② 研究パートナー：株式会社 アイ・メデックス
- ③ 開始年度：2019 年度
- ④ プロジェクトの概要：今まで医療用カテーテルの自己抜去予防のためには、頻回に訪室するか身体拘束をすることで管理していた。しかしコロナ禍で接触回数を控えるには身体拘束をせざるを得ない。そこで、今までにない新たな医療用カテーテル遠隔管理システムを提案する。これにより、頻回な訪室や身体拘束をせずに医療用カテーテルの管理が可能になり、医療崩壊を防ぐ一助となり得る。仕組みは、カテーテルへの手の接触を電圧変化により検知するもので、既に特許を 2 件出願し開発中であり、数年内に臨床応用と販売を目指している。
- ⑤ 資金・助成等：三井住友海上福祉財団 研究助成（2020-2021 年度）
- ⑥ 主な成果：【特許】雨宮歩，菅原久純，加瀬竜太郎，酒井郁子，山下仁：接近検知システムおよび接近検知方法. 特願 2019-011892.
雨宮歩，菅原久純，市田誠，箕輪隆城，菅澤泰久：生体接触検知センサ及びこれを用いた生体接触検知装置. 特願 2020-118115.
- ⑦ その他特記すべき事項（受賞・シンポジウム等）
【学会奨励賞】雨宮歩，原田秋子，加瀬竜太郎，菅原久純：静電容量センサによる点滴等自己抜去防止システムの開発. 第 7 回看護理工学会学術集会，2019.
千葉市産業振興財団 令和 2 年度 ビジネス交流会にてプレゼンテーションを行った。

【理論看護学】

(1) 看護基本技術教育への最新技術導入に関する検討

- ① 本学における共同研究者：齊藤しのぶ，和住淑子，山本利江，錢淑君
- ② 研究パートナー：アドソル日進株式会社
- ③ 開始年度：2020 年度
- ④ プロジェクトの概要：Module 方式による看護方法実習書に基づく看護基本技術教育において、技術修得を促す教育システムの開発に向けて導入する VR 等画像最新技術を検討する。
- ⑤ 資金・助成等：共同研究費資金
- ⑥ 主な成果：技術修得を促す教育システムの開発に向けて、VR 教材化する看護基本技術項目の選定、日常生活力アセスメントモデル、身体の内部構造など看護技術を適用する場面を前提とした VR システムに設定する項目を検討した。

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2020 年度	121	5	138	264

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			計
	審議会委員	科研費審査委員	その他	
2020 年度	3 件 (★)	7	10	20

★ (50音順)

- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会
- ・新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議
- ・文科省職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会

2) 地方公共団体等の機関等

(延べ数)

	件 数				
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事、評議員)	その他	計
2020 年度	12 件 (★)	0	4	33	49

★ (50音順)

- ・印西市予防接種健康被害調査委員会
- ・世田谷区障害者施策推進協議会
- ・千葉県医療審議会
- ・千葉県感染症対策審議会
- ・千葉県現任教員教育推進会議委員
- ・千葉県男女共同参画苦情処理委員
- ・千葉県後期高齢者医療懇談会委員

- ・千葉県健康づくり推進協議会委員
- ・千葉県社会福祉審議会委員
- ・千葉県精神保健福祉審議委員会
- ・東京都精神医療審査会
- ・習志野市健康なまちづくり審議会委員

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数					計
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	その他	
2020年度	5	1	0	0	37 (★)	43

★その他は「千葉大学プレスリリース情報の他機関メディアへの掲載」

V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

教員		大学院生	
研究・研修等	学会参加	研究・研修等	学会参加
なし			

2. 海外からの来訪者数

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
なし				

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2020年4月現在で約250の大学間協定があり、そのうち看護学研究科が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
台湾	台北医学大学 (台北市)	2017
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州 シャーロットタウン)	2016
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
韓国	ソウル国立大学看護学部 （ソウル市）	2016
タイ	コンケン大学看護学部 （コンケン）	2015
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2016
中国	大連医科大学附属第一医院 （大連市）	2019
中国	復旦大学看護学院 （上海市）	2017
中国	香港大学看護学部 （香港）	2018
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 （アラバマ州バーミングハム）	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 （カリフォルニア州サンディエゴ市）	2011
イギリス	アルスター大学看護学部 （北アイルランド）	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007-2012
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018

編集後記

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2020 を刊行しました。年報は、千葉大学看護学部紀要第 1 号（昭和 54 年 3 月発行）～第 32 号（平成 22 年 3 月発行）、そして、千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号（平成 23 年 3 月発行）～第 41 号（平成 31 年 3 月発行）の後継となるものです。

教職員一体となって、看護学研究科の教育、研究と社会貢献の活動内容をしっかりと情報発信し、さらにデータベースとしての位置付けを強化していくことを目的に、令和元（2019）年度に紀要から年報へ変更しました。

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科の「今」を発信し、その「歩み」を蓄積して、今後の発展に繋げてまいります。令和 2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言が 2 回発令され、行動の自粛も要請されたことから、教育、研究と社会貢献活動においても例年のように推進できない状況がありました。その中でも、歩みを止めず、様々に情報を発信している様が本年報から伝わることを期待します。発行までの事務を円滑に調整いただきました工藤係員、菊本係員をはじめ、事務部の皆様に御礼申し上げます。

図書・紀要委員会 委員長 石丸美奈

以下、委員

池崎 澄江、今村恵美子、小川 俊子、中水流 彩、正木 治恵（五十音順）

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2020

2021（令和 3）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究科

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

